

平成25年度

# 栃木県政世論調査

結果の概要

平成25年10月

栃木県



# 目次

---

I	調査の概要	1
II	調査の結果	
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	2
(1-1)	暮らしが悪くなった理由	3
(2)	暮らしの満足度	4
(3)	今後の暮らしの状況	5
(4)	今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	7
3	日常生活について	
(1)	社会貢献活動の参加状況	9
(2)	芸術・文化活動について	10
(3)	スポーツ活動について	11
(4)	住んでいる地域について	12
(5)	「とちぎの元気な森づくり県民税」について	13
4	青少年の健全育成について	
(1)	「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度	14
(2)	心豊かでたくましい青少年を育成するための働きかけ	15
(3)	心豊かでたくましい青少年を育成するための県の取組	16
(4)	フィルタリングサービスの認知度	17
(5)	フィルタリングの解除に保護者の理由書が必要なことの認知度	18
(6)	青少年が携帯電話を介したトラブルに巻き込まれないための取組	19
5	家庭における節電・省エネの取組について	
(1)	東日本大震災を契機とした節電・省エネの意識の変化	20
(2)	節電・省エネの取組状況	21
(3)	今後のさらなる節電・省エネの取組に対する意識	22

---

<b>6 健康づくりについて</b>	
(1) 「健康寿命」の認知度	23
(2) 健康づくりのために意識して取り組んでいること	24
(3) 「運動器症候群（ロコモティブシンドローム）」の認知度	25
(4) 主食・主菜・副菜をそろえた食事を摂る頻度	26
(5) 健康づくりについての県の取組	27
<b>7 食の安全・安心について</b>	
(1) 食品の安全性に対する不安	28
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	29
(2) 食品を購入するときに気を付けること	30
(3) 食の安全に関する知識や情報の取得	31
(4) 食品の安全性の向上	32
<b>8 栃木の郷土の食について</b>	
(1) 「新たな郷土の食」をつくりあげる上で必要なこと	33
(2) 「新たな郷土の食」を創出するための方法	34
(3) 「新たな郷土の食」を地域に浸透させていくための方法	35
<b>9 栃木県の景観まちづくりについて</b>	
(1) 地域の景観に対する関心	36
(2) 身近な景観の変化	37
(3) 景観を悪くしている原因	38
(4) 景観を良くするために取り組むべき主体	39
(5) 景観づくりを進めていくための行政の取組	40
<b>10 犯罪と治安対策について</b>	
(1) 県内の治安状況	41
(2) 不安を感じる犯罪	42
(3) 公共空間における防犯カメラの設置について	43
(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと	44
(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動	45
(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策	46
(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策	47
(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策	48

# I 調査の概要

## 1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

## 2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について\*
  - (2) 県政への要望について\*
  - (3) 日常生活について\*
  - (4) 青少年の健全育成について
  - (5) 家庭における節電・省エネの取組について
  - (6) 健康づくりについて
  - (7) 食の安全・安心について
  - (8) 栃木の郷土の食について
  - (9) 栃木県の景観まちづくりについて
  - (10) 犯罪と治安対策について
- (\*印は時系列調査)

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 平成25年5月22日～6月17日

## 4 調査機関

株式会社エスピー研

## 5 回収結果

回収数（率） 1,294（64.7%）

## 6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。

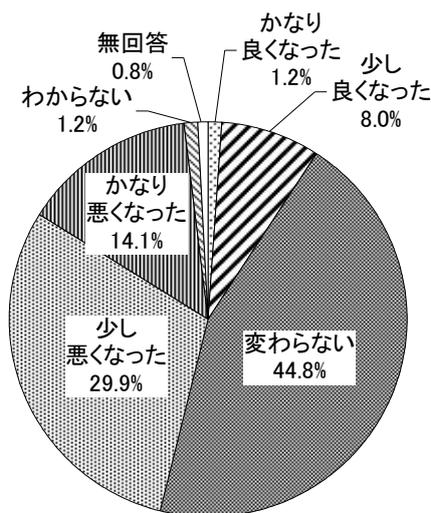
## Ⅱ 調査の結果

### 1 暮らしの変化について

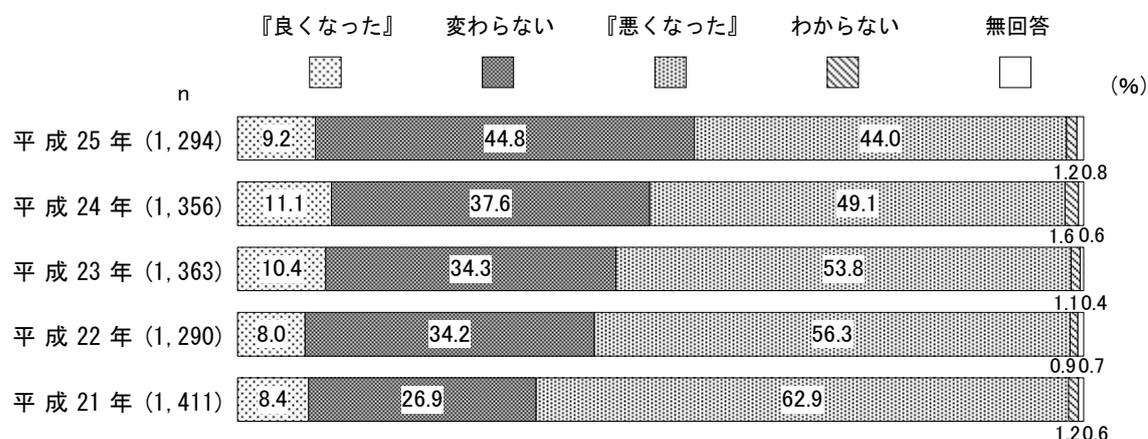
#### (1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,294]



- ・全体でみると、「かなり良くなった」(1.2%)と「少し良くなった」(8.0%)の2つを合わせた『良くなった』(9.2%)はほぼ1割となっている。一方、「少し悪くなった」(29.9%)と「かなり悪くなった」(14.1%)の2つを合わせた『悪くなった』(44.0%)は4割半ばとなっている。
- ・性別でみると、『悪くなった』では〈男性〉(47.3%)が〈女性〉(42.2%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が20.0%、〈女性20歳代〉が19.1%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性50歳代〉が55.9%と高くなっている。

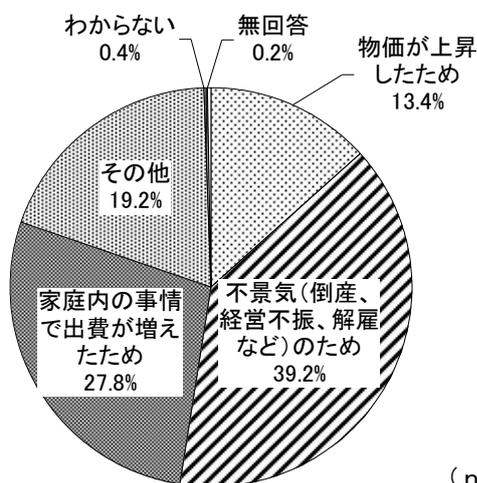


- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』は減少傾向となっている。一方、『良くなった』は1割前後で推移している。

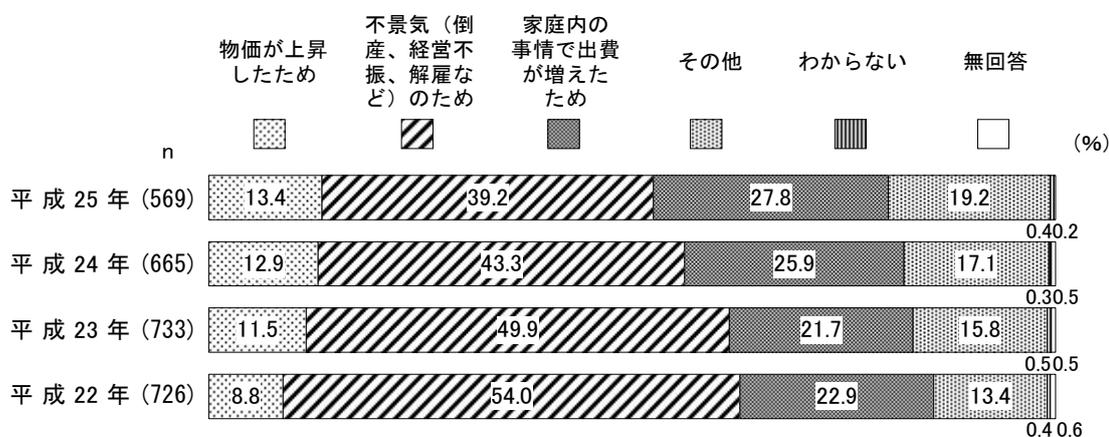
## (1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな原因を1つ選んでください。 [n=569]



- ・全体でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(39.2%)がほぼ4割で最も高く、次いで「家庭内の事情で出費が増えたため」(27.8%)、「物価が上昇したため」(13.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(42.3%)が〈女性〉(35.1%)より7.2ポイント高く、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(32.3%)が〈男性〉(23.0%)より9.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性30歳代〉が56.7%、〈男性20歳代〉が55.6%と高くなっている。「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性20歳代〉が53.3%、〈女性30歳代〉が51.4%と高くなっている。

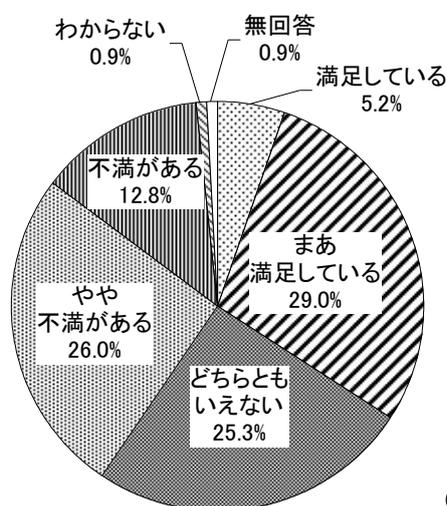


- ・過去の調査結果と比較すると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」は減少傾向となっており、「家庭内の事情で出費が増えたため」は平成23年以降増加傾向にある。

## (2) 暮らしの満足度

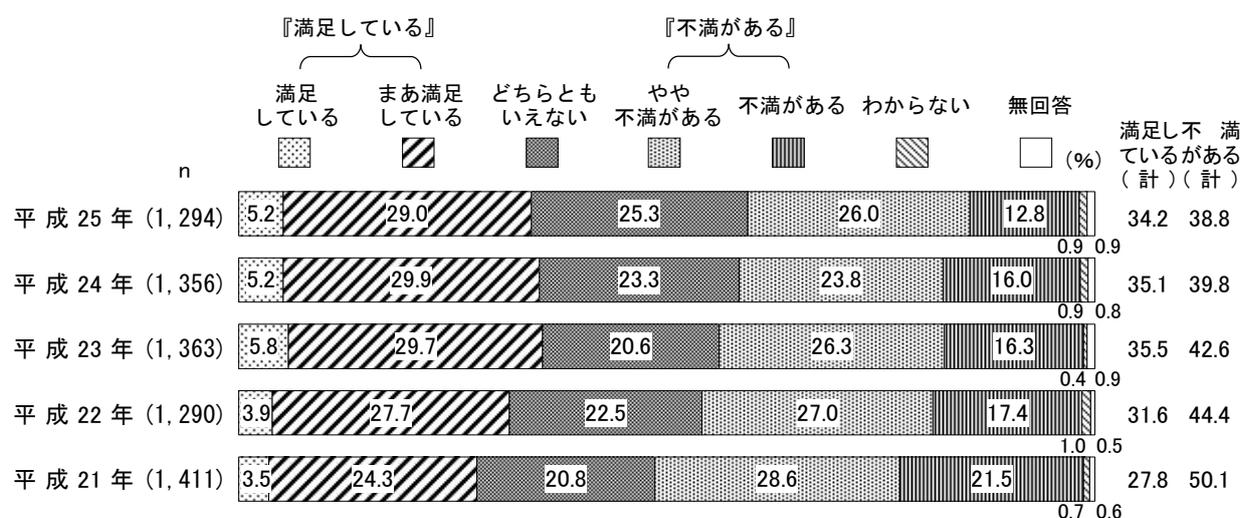
問2 あなたは、今の暮らしについてのどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,294]



(n = 1,294)

- ・全体でみると、「満足している」(5.2%)と「まあ満足している」(29.0%)の2つを合わせた『満足している』(34.2%)は3割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(26.0%)と「不満がある」(12.8%)の2つを合わせた『不満がある』(38.8%)は4割近くとなっている。
- ・性別でみると、『満足している』では〈女性〉(35.6%)が〈男性〉(32.1%)より3.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が52.4%と高くなっている。『不満がある』では〈男性50歳代〉が59.1%と高くなっている。

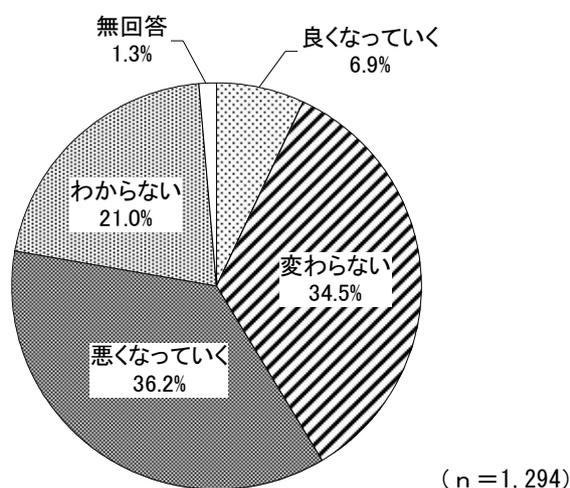


- ・過去の調査結果と比較すると、『不満がある』は減少傾向となっている。『満足している』は平成23年以降3割半ばで推移しており、平成22年以前と比べて高くなっている。

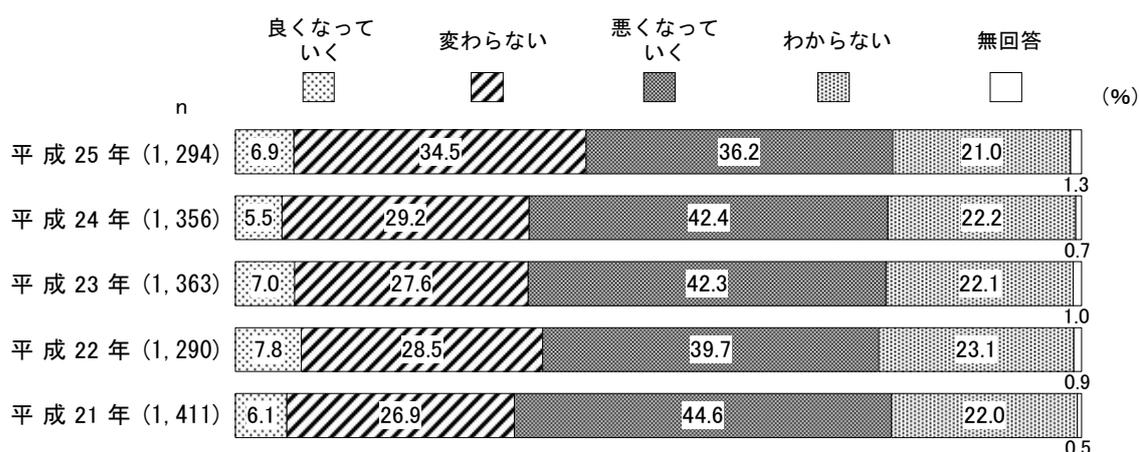
### (3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 294]



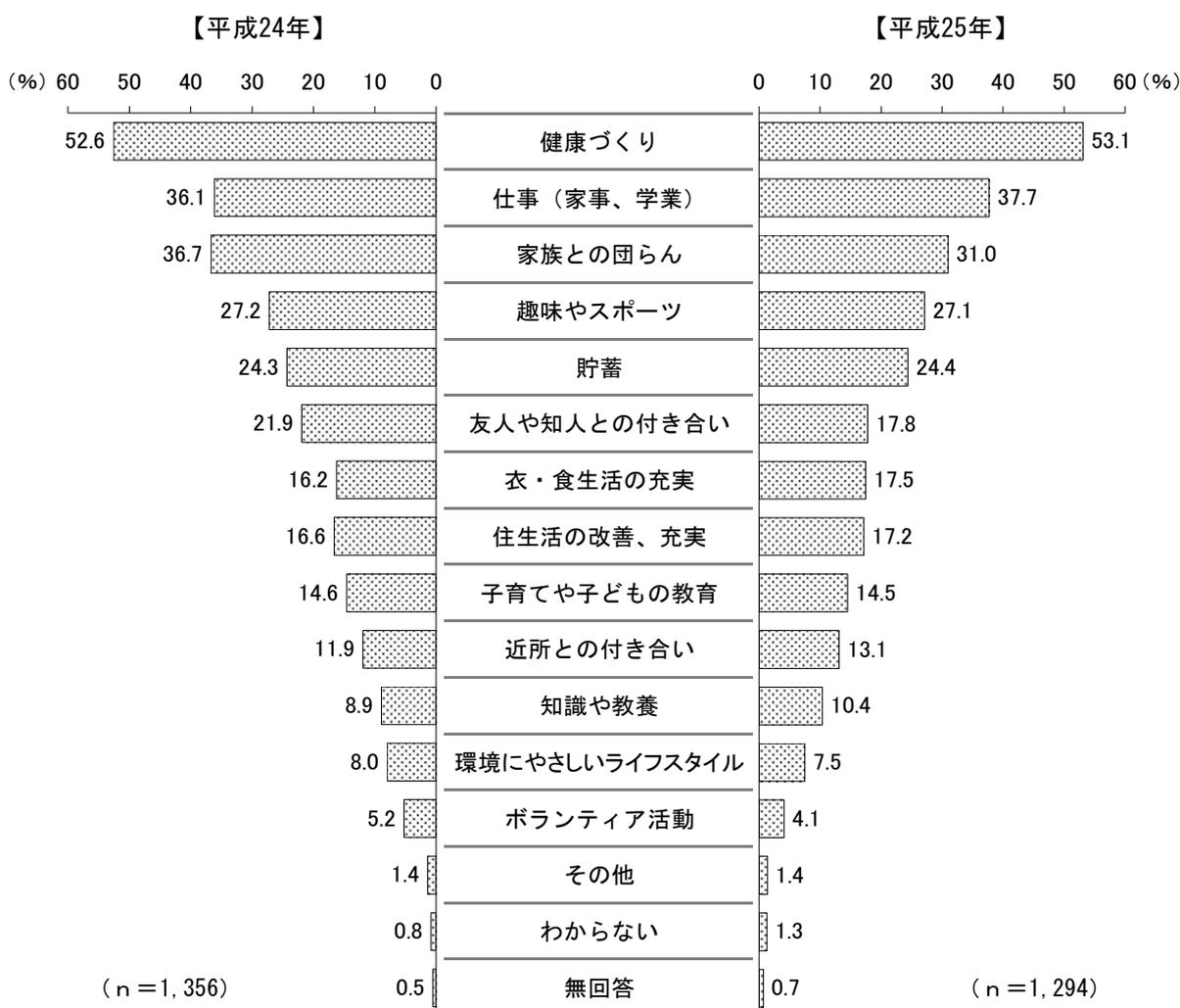
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(6.9%)は1割に満たない。「変わらない」(34.5%)と「悪くなっていく」(36.2%)はともに3割半ばである。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(37.9%)が〈女性〉(34.1%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉が25.5%、〈女性20歳代〉が17.5%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈女性65～69歳〉が52.5%、〈男性65～69歳〉が50.0%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「変わらない」は前回(平成24年)より増加しており、「悪くなっていく」は前回(平成24年)より減少している。

#### (4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1, 294]

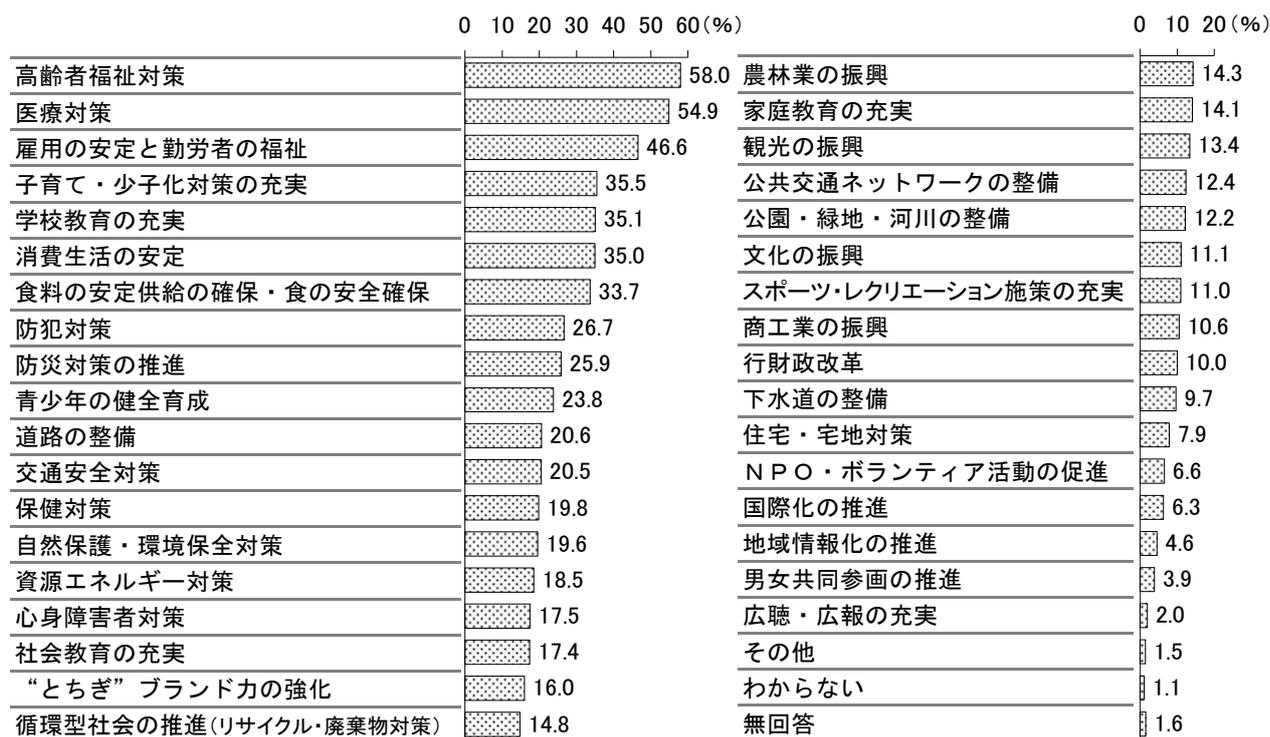


- ・全体でみると、「健康づくり」(53.1%)が5割を超えて最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(37.7%)、「家族との団らん」(31.0%)、「趣味やスポーツ」(27.1%)、「貯蓄」(24.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(32.4%)が〈女性〉(22.5%)より9.9ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(18.0%)が〈男性〉(11.4%)より6.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「健康づくり」では〈男性の60～64歳以上の各年代〉と〈女性の50歳代以上の各年代〉が6割以上と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性の20歳代から40歳代の各年代〉と〈女性20歳代〉が6割以上と高くなっている。「貯蓄」では〈女性の20歳代から40歳代の各年代〉が4割以上と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉で61.8%と高くなっている。「近所との付き合い」では〈女性70歳以上〉が34.3%と高くなっている。
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「家族との団らん」が5.7ポイント減少している。

## 2 県政への要望について

### (1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら“「安心」「成長」「環境」をともにつくる元気度日本一 栃木県”をめざしていろいろな仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,294]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(58.0%)と「医療対策」(54.9%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(46.6%)の3項目が高く、次いで「子育て・少子化対策の充実」(35.5%)、「学校教育の充実」(35.1%)、「消費生活の安定」(35.0%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(33.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(39.4%)が〈男性〉(28.1%)より11.3ポイント高く、「消費生活の安定」では〈女性〉(38.3%)が〈男性〉(31.7%)より6.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈男性70歳以上〉が80.6%、〈女性65～69歳〉が77.5%、〈女性70歳以上〉が76.2%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性50歳代〉が63.4%と高くなっている。「子育て・少子化対策の充実」では〈女性30歳代〉が68.5%と高く、「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が59.6%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性65～69歳〉が52.5%と高くなっている。

[過去の調査結果]

(上位5項目)

年\順位	1位	2位	3位	4位	5位
平成25年	高齢者福祉対策 58.0%	医療対策 54.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.6%	子育て・少子化対策の充実 35.5%	学校教育の充実 35.1%
平成24年	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 52.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.7%	消費生活の安定 38.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.8%
平成23年	高齢者福祉対策 57.0%	医療対策 54.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.2%	消費生活の安定 35.0%
平成22年	高齢者福祉対策 62.1%	医療対策 57.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 53.3%	消費生活の安定 36.4%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 34.5%
平成21年	医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.5%
平成20年	高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年	高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年	高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.8%
平成17年	高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全育成 37.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.6%
平成16年	高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全育成 34.3%
平成15年	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.5%	青少年の健全育成／防犯対策 34.1%	
平成14年	高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	青少年の健全育成 34.5%	廃棄物の処理対策 32.7%
平成13年	高齢者福祉対策 51.7%	青少年の健全育成 43.6%	廃棄物の処理対策 42.0%	医療対策 39.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.2%
平成12年	老人福祉対策 41.5%	青少年の健全育成 39.3%	廃棄物の処理対策 34.1%	学校教育の充実 34.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.3%
平成11年	老人福祉対策 46.5%	廃棄物の処理対策 42.8%	医療対策 39.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.1%	青少年の健全育成 35.5%

※平成12年まで「高齢者福祉対策」は「老人福祉対策」

平成12年まで「消費生活の安定」は「消費者保護対策」

平成20年まで「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」であり、平成13年より加わった選択肢である。

「子育て・少子化対策の充実」は平成13年より加わった選択肢である。

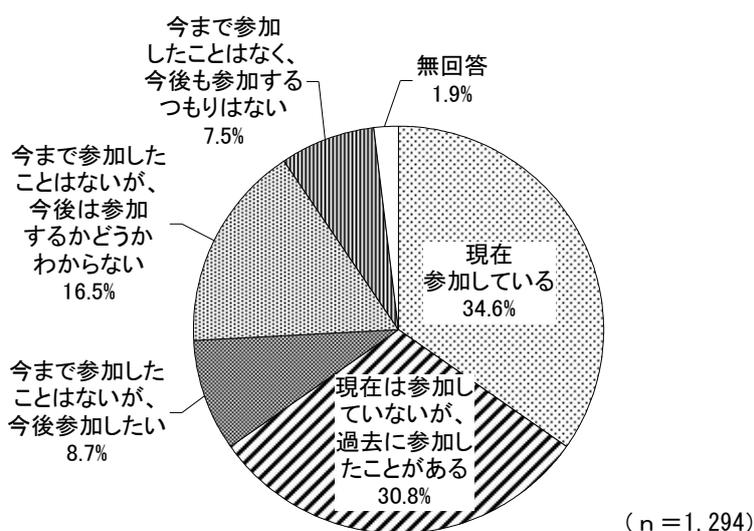
- ・ 上位5項目を過去の調査結果と比較すると、上位3項目は平成22年以降同じ順位となっている。また、「子育て・少子化対策の充実」は平成18年以来、「学校教育の充実」は平成19年以降の上位5項目となっている。

### 3 日常生活について

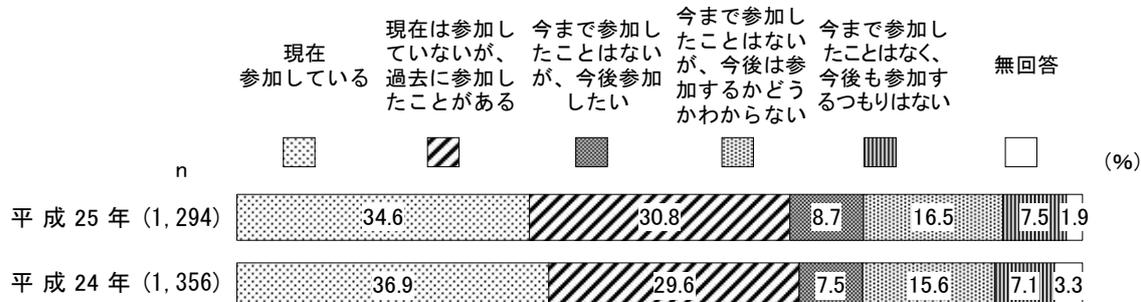
#### (1) 社会貢献活動の参加状況

問6 あなたは、社会貢献活動（※）に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ、エコキャップなどの物品収集や公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（特定非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会等の地域活動などをいいます。



- ・全体で見ると、「現在参加している」(34.6%)が3割半ばで最も高く、次いで「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」(30.8%)、「今まで参加したことはないが、今後参加するかどうか分からない」(16.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「現在参加している」では〈女性〉(38.2%)が〈男性〉(30.9%)より7.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「現在参加している」では〈女性60～64歳〉が52.6%、〈女性40歳代〉が48.8%と高くなっている。一方、〈女性20歳代〉では15.9%となっている。



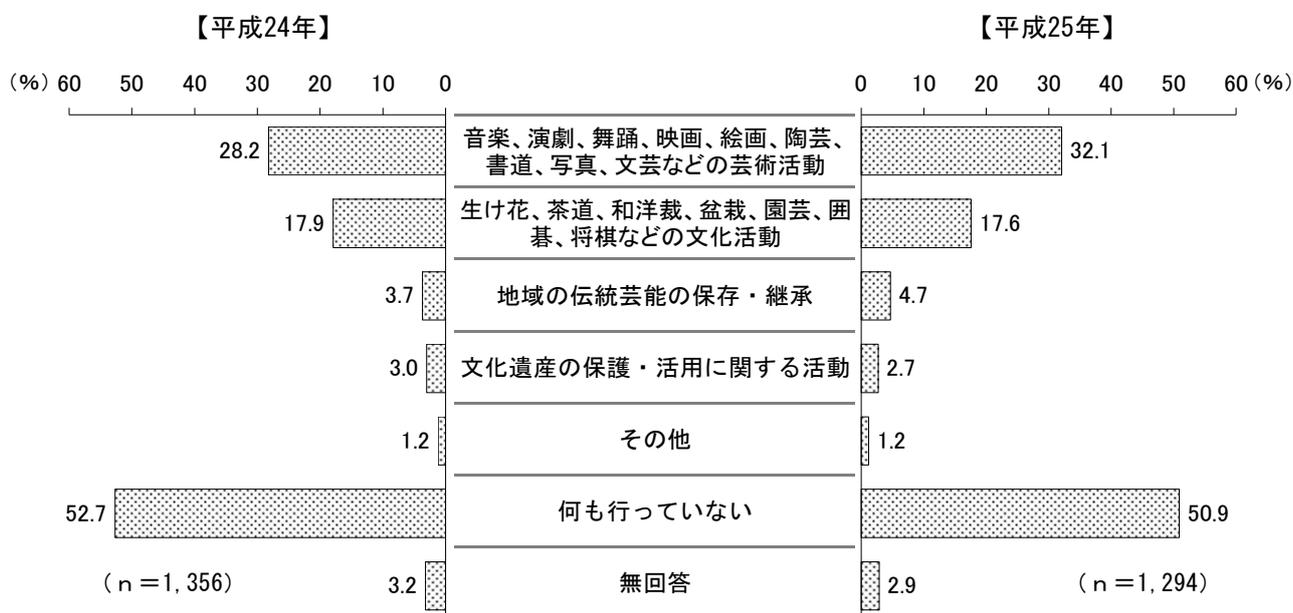
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 芸術・文化活動について

問7 あなたが日ごろ行っている芸術・文化活動は、どのようなものですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,294]



- ・全体でみると、「音楽、演劇、舞踊、映画、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（32.1%）が3割を超えており、「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」（17.6%）が2割近くとなっている。一方、「何も行っていない」（50.9%）はほぼ5割となっている。
- ・性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉（36.4%）が〈男性〉（28.6%）より7.8ポイント高く、『文化活動』では〈女性〉（19.8%）が〈男性〉（15.7%）より4.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『芸術活動』では〈女性40歳代〉が45.1%と高く、『文化活動』では〈男性70歳以上〉が33.1%、〈女性70歳以上〉が32.9%と高くなっている。
- ・前回（平成24年）の調査結果と比較すると、『芸術活動』が3.9ポイント増加している。

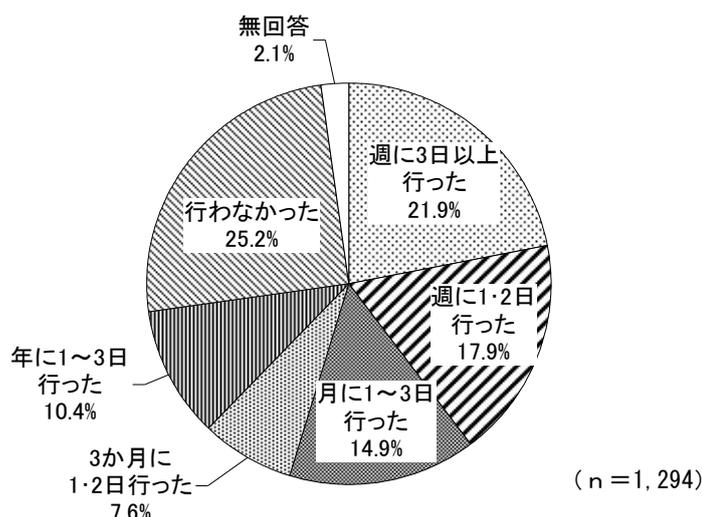
### (3) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にスポーツ(※)を行いましたか。

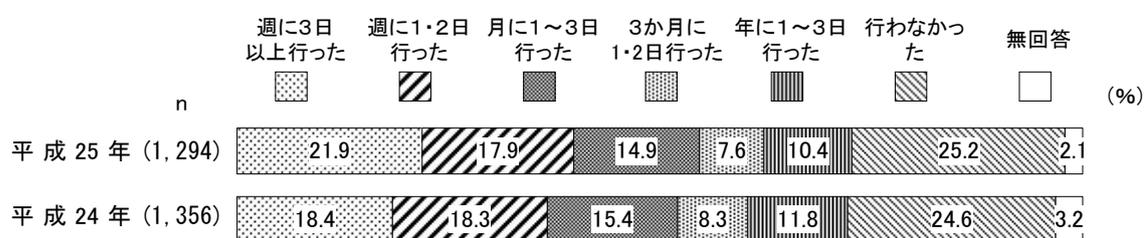
次の中から1つ選んでください。

[n=1,294]

※ スポーツとは、ウォーキング、散歩、ダンス、ボウリング、ハイキング・キャンプなどのアウトドアスポーツ、軽い体操、レクリエーションスポーツを含みます。



- ・全体で見ると、「週に3日以上行った」(21.9%)は2割を超えている。「週に1・2日行った」(17.9%)は2割近くで、「月に1～3日行った」(14.9%)は1割半ばとなっている。一方、「行わなかった」(25.2%)は2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「週に3日以上行った」では〈男性〉(24.1%)が〈女性〉(19.9%)より4.2ポイント高く、「行わなかった」では〈女性〉(26.5%)が〈男性〉(23.1%)より3.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上行った」では〈男性70歳以上〉が37.9%、〈男性65～69歳〉が35.2%と高くなっている。

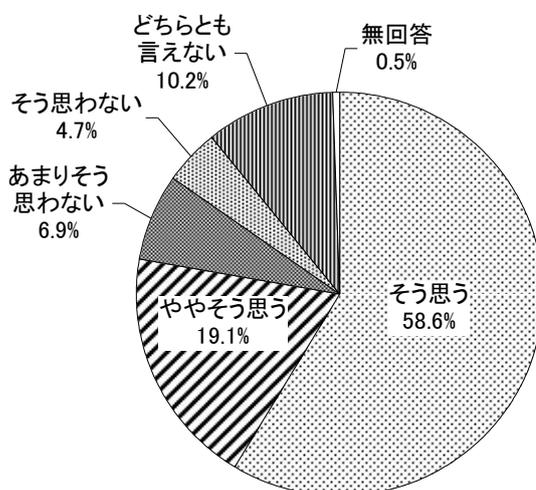


- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「週に3日以上行った」は3.5ポイント増加している。

#### (4) 住んでいる地域について

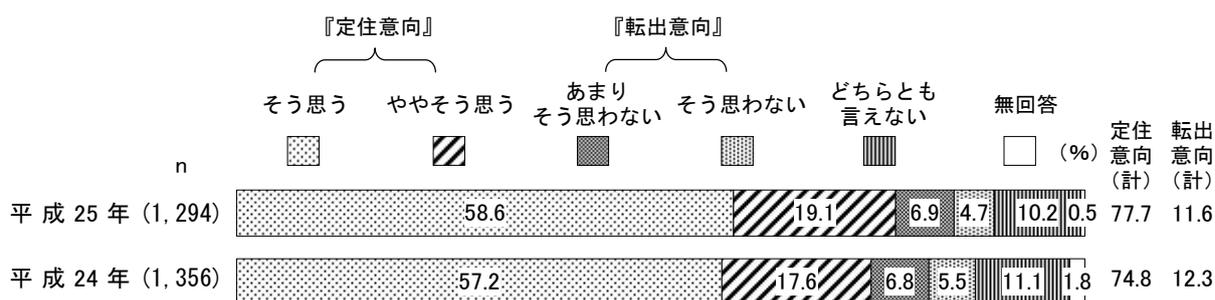
問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 294]



(n = 1, 294)

- ・全体でみると、「そう思う」(58.6%)と「ややそう思う」(19.1%)の2つを合わせた『定住意向』(77.7%)は8割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(6.9%)と「そう思わない」(4.7%)の2つを合わせた『転出意向』(11.6%)は1割を超えている。
- ・性別でみると、「そう思う」は〈男性〉(60.7%)が〈女性〉(56.9%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『定住意向』では〈男女とも60~64歳〉と〈男女とも70歳以上〉が8割を超えて高くなっている。『転出意向』では〈男性20歳代〉が27.2%と高くなっている。

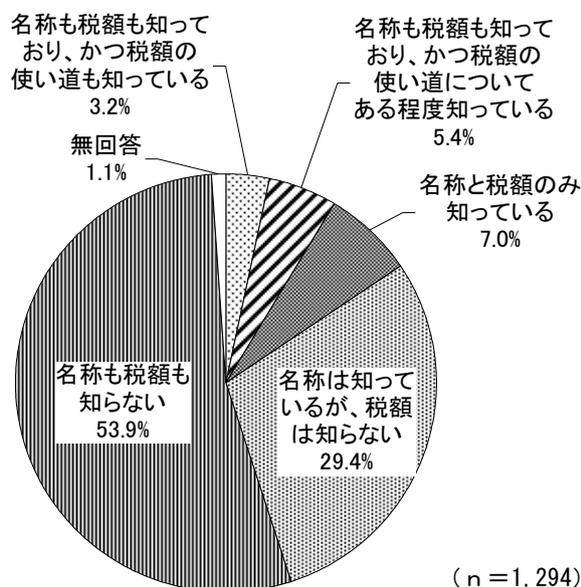


- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、『定住意向』は2.9ポイント増加している。

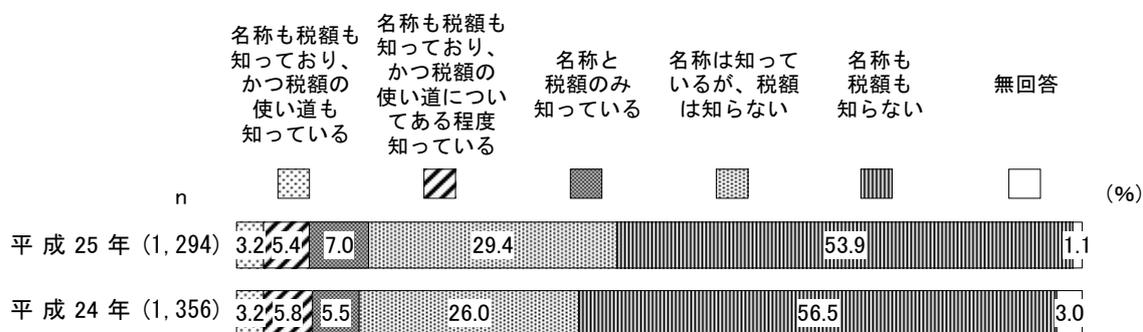
(5) 「とちぎの元気な森づくり県民税」について

問10 あなたは、平成20年4月から本県で導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,294]



- ・全体で見ると、「名称は知っているが、税額は知らない」(29.4%)がほぼ3割で、「名称と税額のみ知っている」が7.0%、「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」が5.4%となっている。一方、「名称も税額も知らない」(53.9%)は5割を超えている。
- ・性別で見ると、「名称も税額も知らない」では〈女性〉(56.3%)が〈男性〉(50.5%)より5.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道も知っている」では〈男性65～69歳〉が11.4%と高くなっている。一方、「名称も税額も知らない」では〈女性20歳代〉が79.4%、〈女性40歳代〉が75.6%と高くなっている。

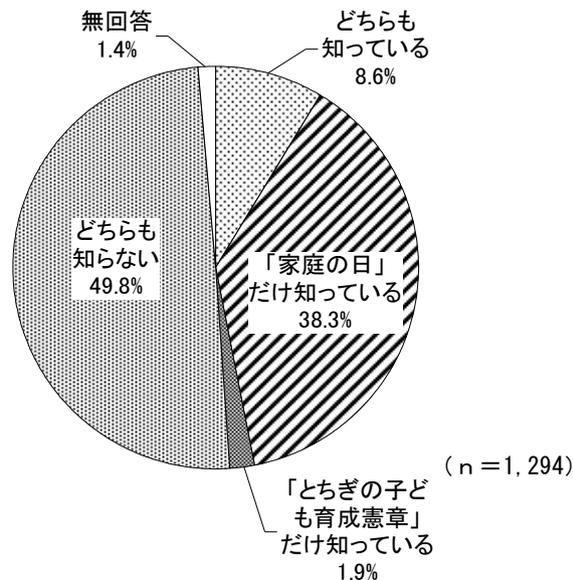


- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「名称は知っているが、税額は知らない」は3.4ポイント増加しており、「名称も税額も知らない」は2.6ポイント減少している。

## 4 青少年の健全育成について

### (1) 「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度

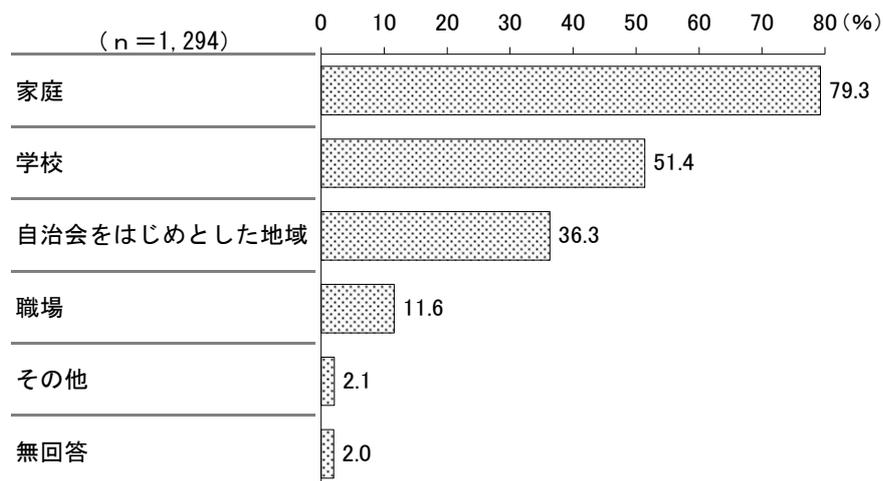
問11 あなたは、「家庭の日」（毎月第3日曜日）及び「とちぎの子ども育成憲章」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]



- ・全体で見ると、「どちらも知っている」（8.6%）と「『家庭の日』だけ知っている」（38.3%）の2つを合わせた「『家庭の日』を知っている」（46.9%）は5割近くとなっている。また、「どちらも知っている」（8.6%）と「『とちぎの子ども育成憲章』だけ知っている」（1.9%）の2つを合わせた「『とちぎの子ども育成憲章』を知っている」（10.5%）はほぼ1割となっている。「どちらも知らない」（49.8%）は5割である。
- ・性別で見ると、「『家庭の日』を知っている」では〈女性〉（56.6%）が〈男性〉（36.9%）より19.7ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「『家庭の日』を知っている」では〈女性40歳代〉が67.1%と高く、「『とちぎの子ども育成憲章』を知っている」では〈女性40歳代〉が25.7%と高くなっている。

## (2) 心豊かでたくましい青少年を育成するための働きかけ

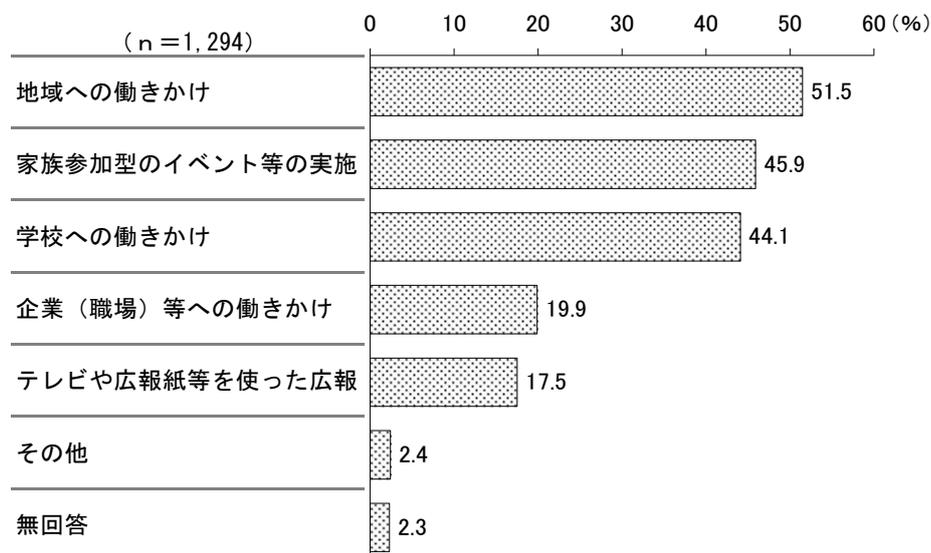
問12 「家庭の日」及び「とちぎの子ども育成憲章」の理念を踏まえ、心豊かでたくましい青少年を育成するためには、特にどこに働きかけることが必要だと思いますか。次の中から必要だと思われるものを2つまで選んでください。 [n=1,294]



- ・全体で見ると、「家庭」(79.3%)がほぼ8割で最も高く、次いで「学校」(51.4%)、「自治会をはじめとした地域」(36.3%)、「職場」(11.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「学校」では〈女性20歳代〉が69.8%、〈女性30歳代〉が69.7%と高くなっている。「自治会をはじめとした地域」では〈女性70歳以上〉が48.3%、〈男性60～64歳〉が45.5%と高くなっている。「職場」では〈男性40歳代〉が23.2%と高くなっている。

### (3) 心豊かでたくましい青少年を育成するための県の取組

問13 「家庭の日」及び「とちぎの子ども育成憲章」の理念を踏まえ、心豊かでたくましい青少年を育成するためには、県はどのような取組をすることが必要だと思いますか。次の中から特に必要だと思われるものを2つまで選んでください。[n=1,294]

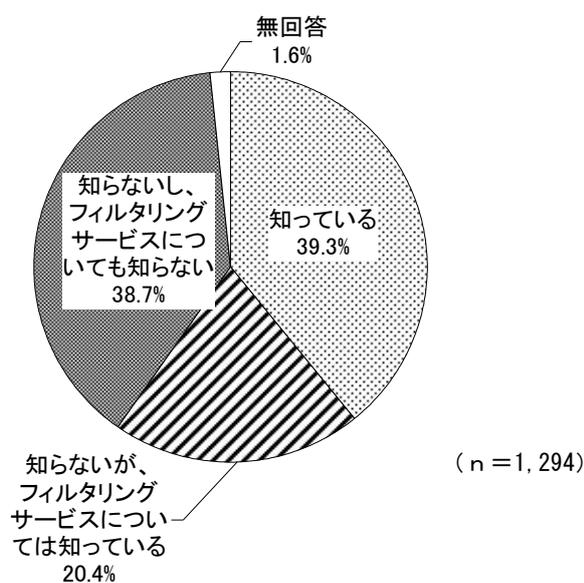


- ・全体でみると、「地域への働きかけ」（51.5%）が5割を超えて最も高く、次いで「家族参加型のイベント等の実施」（45.9%）、「学校への働きかけ」（44.1%）、「企業（職場）等への働きかけ」（19.9%）、「テレビや広報紙等を使った広報」（17.5%）の順となっている。
- ・性別でみると、「家族参加型のイベント等の実施」では〈女性〉（48.7%）が〈男性〉（43.1%）より5.6ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別でみると、「地域への働きかけ」では〈男性60～64歳〉が66.7%と高く、「家族参加型のイベント等の実施」では〈女性60～64歳〉が70.5%と高くなっている。「学校への働きかけ」では〈女性30歳代〉が57.3%、〈女性20歳代〉が55.6%と高くなっている。「企業（職場）等への働きかけ」では〈男性20歳代〉が38.2%と高くなっている。

#### (4) フィルタリングサービスの認知度

問14 あなたは、「青少年インターネット環境整備法」(平成21年4月施行)で携帯電話の使用者が青少年(18歳未満)の場合、携帯電話インターネット接続役務提供事業者(携帯電話事業者)は、原則フィルタリングサービス(※)を提供しなければならないことを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]

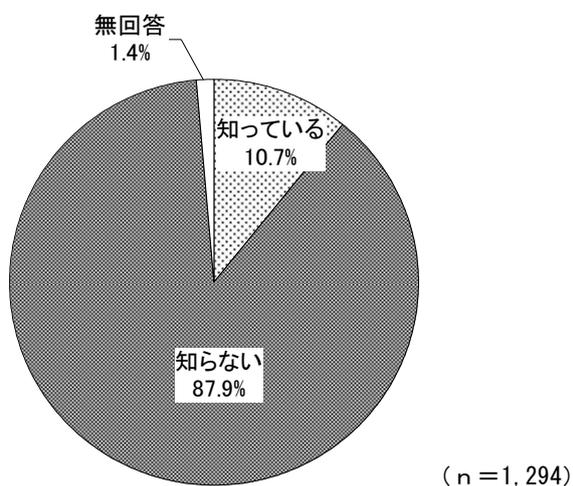
※ フィルタリングサービスとは、有害情報などが含まれる特定のサイトへのアクセスを制限するサービスのことです。



- ・全体で見ると、「知っている」(39.3%)はほぼ4割となっている。「知らないが、フィルタリングサービスについては知っている」(20.4%)は2割で、「知らないし、フィルタリングサービスについても知らない」(38.7%)は4割近くである。
- ・性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(41.7%)が〈女性〉(38.3%)より3.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈男性30歳代〉が62.0%、〈男性20歳代〉が60.0%と高くなっている。「知らないし、フィルタリングサービスについても知らない」では〈女性65~69歳〉が68.8%、〈男女とも70歳以上〉がほぼ6割と高くなっている。

## (5) フィルタリングの解除に保護者の理由書が必要なことの認知度

問15 あなたは、「栃木県青少年健全育成条例の一部改正」(平成24年10月施行)で、保護者は、フィルタリングを解除したい場合、理由書を提出しなければならないことを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]

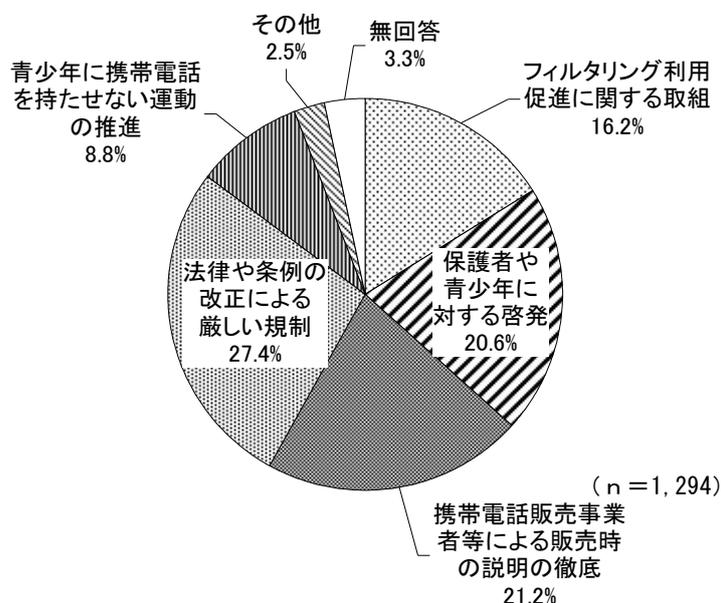


- ・全体で見ると、「知っている」(10.7%)はほぼ1割となっている。「知らない」(87.9%)は9割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(13.3%)が〈女性〉(8.7%)より4.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈男性20歳代〉が23.6%と高くなっている。

## (6) 青少年が携帯電話を介したトラブルに巻き込まれないための取組

問16 あなたは、青少年が携帯電話を介したトラブルに巻き込まれないようにするため、特にどのような取組が必要であると思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 294]

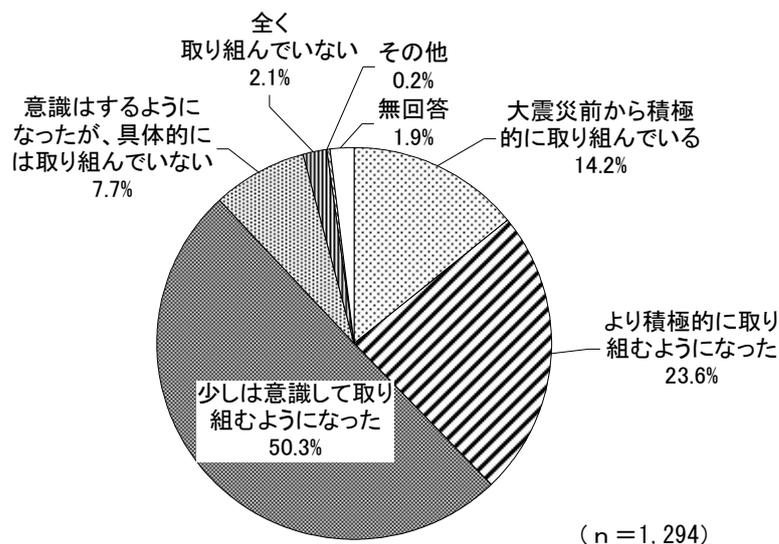


- ・全体でみると、「法律や条例の改正による厳しい規制」(27.4%)が3割近くで最も高く、次いで「携帯電話販売事業者等による販売時の説明の徹底」(21.2%)、「保護者や青少年に対する啓発」(20.6%)、「フィルタリング利用促進に関する取組」(16.2%)、「青少年に携帯電話を持たせない運動の推進」(8.8%)の順となっている。
- ・性別でみると、「法律や条例の改正による厳しい規制」では〈男性〉(29.5%)が〈女性〉(26.2%)より3.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「法律や条例の改正による厳しい規制」では〈男性65～69歳〉が36.4%、〈女性65～69歳〉が36.3%と他の年代に比べて高くなっている。「携帯電話販売事業者等による販売時の説明の徹底」では〈男性40歳代〉が28.0%と他の年代に比べて高くなっている。「保護者や青少年に対する啓発」では〈女性50歳代〉が29.8%、〈男性20歳代〉が27.3%、〈女性20歳代〉が27.0%と高くなっている。「フィルタリング利用促進に関する取組」では〈女性30歳代〉が27.0%と高くなっている。

## 5 家庭における節電・省エネの取組について

### (1) 東日本大震災を契機とした節電・省エネの意識の変化

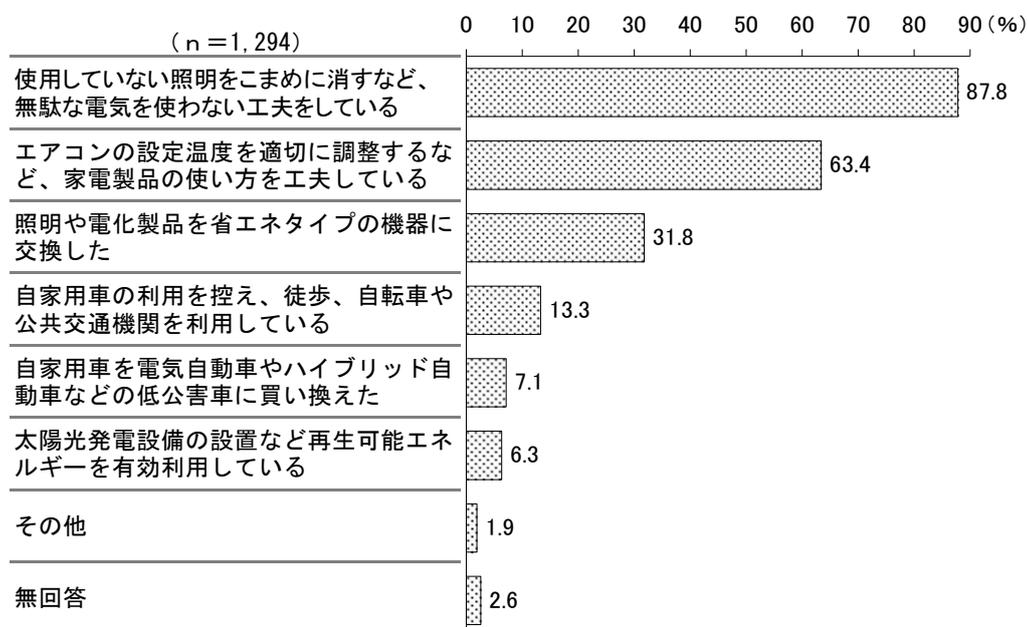
問17 あなたの家庭では、東日本大震災前と比較して、節電や省エネに取り組むようになりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]



- ・全体で見ると、「少しは意識して取り組むようになった」(50.3%)が5割で最も高くなっている。「より積極的に取り組むようになった」(23.6%)は2割を超え、「大震災前から積極的に取り組んでいる」(14.2%)は1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「より積極的に取り組むようになった」では〈男性〉(26.6%)が〈女性〉(21.9%)より4.7ポイント高くなっている。「大震災前から積極的に取り組んでいる」では〈女性〉(16.0%)が〈男性〉(12.2%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「より積極的に取り組むようになった」では〈男性60～64歳〉が33.3%、〈男性70歳以上〉が32.3%と高くなっている。「大震災前から積極的に取り組んでいる」では〈女性70歳以上〉が25.2%と高くなっている。

## (2) 節電・省エネの取組状況

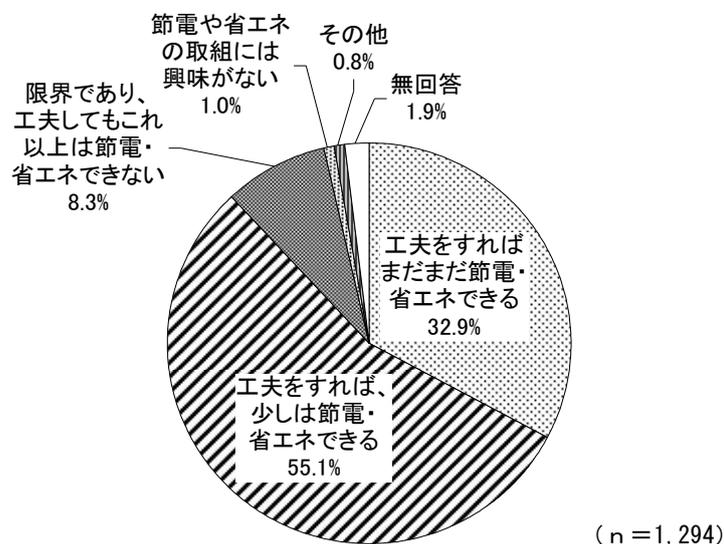
問18 あなたの家庭で取り組んでいる節電や省エネの取組について、次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,294]



- ・全体で見ると、「使用していない照明をこまめに消すなど、無駄な電気を使わない工夫をしている」(87.8%)が9割近くで最も高く、次いで「エアコンの設定温度を適切に調整するなど、家電製品の使い方を工夫している」(63.4%)、「照明や電化製品を省エネタイプの機器に交換した」(31.8%)、「自家用車の利用を控え、徒歩、自転車や公共交通機関を利用している」(13.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「エアコンの設定温度を適切に調整するなど、家電製品の使い方を工夫している」では〈女性〉(69.0%)が〈男性〉(58.3%)より10.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「エアコンの設定温度を適切に調整するなど、家電製品の使い方を工夫している」では〈女性30歳代〉が79.8%、〈女性40歳代〉が78.0%と高くなっている。「照明や電化製品を省エネタイプの機器に交換した」では〈男性60～64歳〉が43.9%、〈女性65～69歳〉が42.5%と高くなっている。「自家用車の利用を控え、徒歩、自転車や公共交通機関を利用している」では〈男性65～69歳〉が22.7%、〈男性70歳以上〉が21.0%と高くなっている。

### (3) 今後のさらなる節電・省エネの取組に対する意識

問19 あなたの家庭における今後の節電や省エネの取組について、どのようにお考えですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]



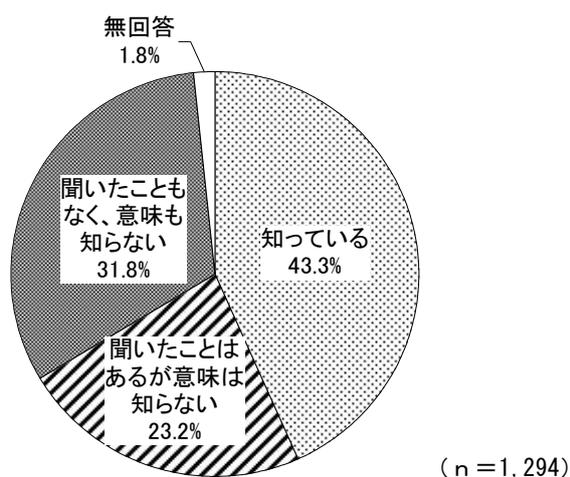
- ・全体で見ると、「工夫をすればまだまだ節電・省エネできる」(32.9%)は3割を超え、「工夫をすれば、少しは節電・省エネできる」(55.1%)は5割半ばとなっている。「限界であり、工夫してもこれ以上は節電・省エネできない」(8.3%)は1割近くである。
- ・性別で見ると、「工夫をすればまだまだ節電・省エネできる」では〈女性〉(35.0%)が〈男性〉(30.5%)より4.5ポイント高くなっている。「工夫をすれば、少しは節電・省エネできる」では〈男性〉(58.4%)が〈女性〉(52.8%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「工夫をすればまだまだ節電・省エネできる」では〈女性40歳代〉が41.5%、〈女性20歳代〉が41.3%と、他の年代に比べて高くなっている。

## 6 健康づくりについて

### (1) 「健康寿命」の認知度

問20 あなたは、「健康寿命」(※)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]

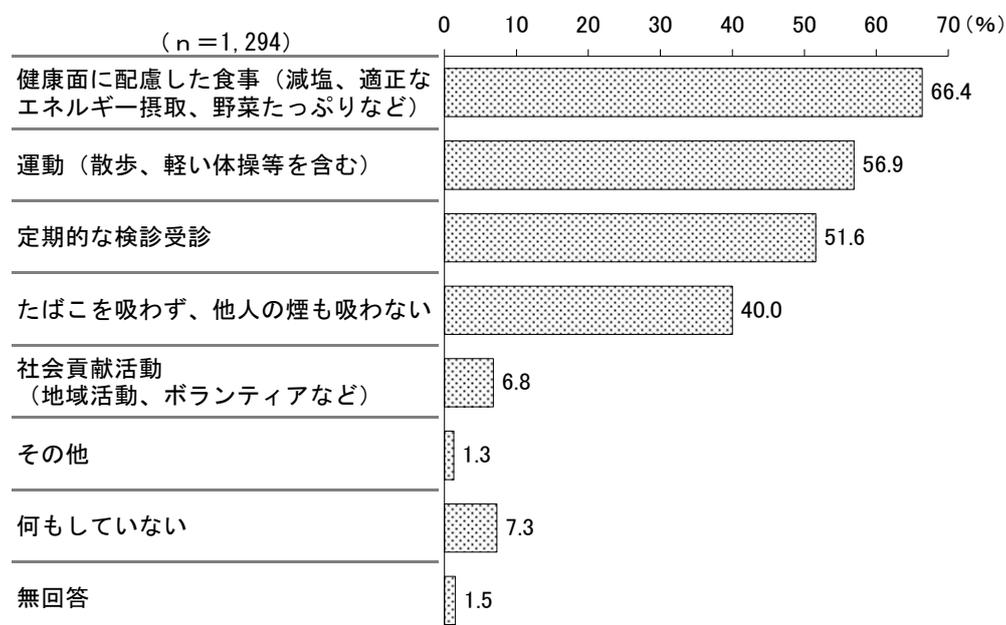
※ 「健康寿命」とは、寝たきりになったり、介護が必要になるなど、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことをいいます。



- ・全体で見ると、「知っている」(43.3%)は4割を超えている。「聞いたことはあるが意味は知らない」(23.2%)は2割を超えており、「聞いたこともなく、意味も知らない」(31.8%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、「知っている」では〈女性〉(48.2%)が〈男性〉(38.4%)より9.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈女性の60～64歳以上の各年代〉でいずれも6割台と高くなっている。

## (2) 健康づくりのために意識して取り組んでいること

問21 あなたが、健康づくりのために日常生活で意識して取り組んでいることは何ですか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 294]

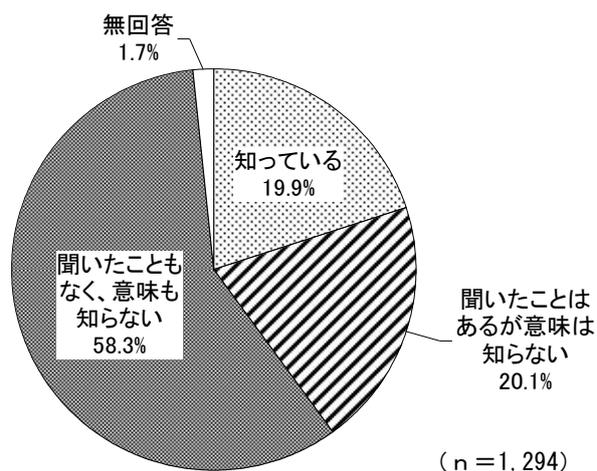


- ・全体で見ると、「健康面に配慮した食事（減塩、適正なエネルギー摂取、野菜たっぷりなど）」（66.4%）が6割半ばで最も高く、次いで「運動（散歩、軽い体操等を含む）」（56.9%）、「定期的な検診受診」（51.6%）、「たばこを吸わず、他人の煙も吸わない」（40.0%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「健康面に配慮した食事（減塩、適正なエネルギー摂取、野菜たっぷりなど）」では〈女性〉（74.3%）が〈男性〉（58.1%）より16.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康面に配慮した食事（減塩、適正なエネルギー摂取、野菜たっぷりなど）」では〈女性65～69歳〉が81.3%と高くなっている。「運動（散歩、軽い体操等を含む）」では〈男女とも60～64歳以上の各年代〉が6割以上と高くなっている。「定期的な検診受診」では〈男性70歳以上〉が68.5%と高くなっている。「たばこを吸わず、他人の煙も吸わない」では〈女性30歳代〉が52.8%と高くなっている。

### (3) 「運動器症候群（ロコモティブシンドローム）」の認知度

問22 あなたは、「運動器症候群（ロコモティブシンドローム）」(※)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]

※ 「運動器症候群（ロコモティブシンドローム）」とは、加齢に伴う筋力の低下や関節・脊椎の病気、骨粗しょう症などにより運動器の機能が衰えて、要介護や寝たきりになってしまったり、そのリスクが高い状態のことをいいます。



- ・全体で見ると、「知っている」(19.9%)は2割となっている。「聞いたことはあるが意味は知らない」(20.1%)も2割で、「聞いたこともなく、意味も知らない」(58.3%)は6割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「知っている」では〈女性〉(24.0%)が〈男性〉(15.7%)より8.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈女性65～69歳〉が32.5%、〈女性70歳以上〉が32.2%と高くなっている。

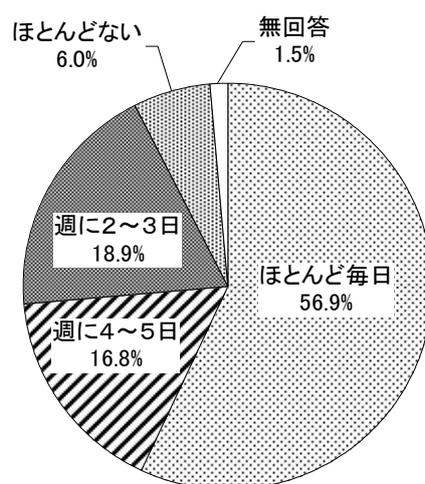
#### (4) 主食・主菜・副菜をそろえた食事を摂る頻度

問23 あなたは、主食・主菜・副菜（※）を3つそろえて食べることが1日2回以上ある日が、週に何日ありますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,294]

※「主食」：米、パン、めん類などの穀類で、主として糖質エネルギーの供給源となるもの

「主菜」：魚や肉、卵、大豆製品などを使った副食の中心となる料理で、主として良質たんぱく質や脂肪の供給源となるもの

「副菜」：野菜などを使った料理で、主食と主菜に不足するビタミン、ミネラル、食物繊維などを補うもの

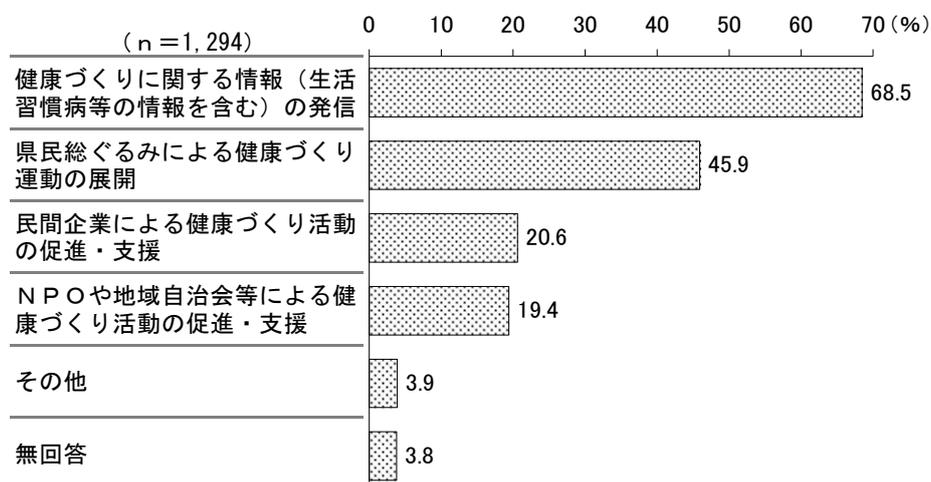


(n=1,294)

- ・全体でみると、「ほとんど毎日」(56.9%)は6割近くとなっている。「週に4~5日」(16.8%)と「週に2~3日」(18.9%)はともに2割近くで、「ほとんどない」(6.0%)は1割に満たない。
- ・性別でみると、「ほとんど毎日」では〈女性〉(60.3%)が〈男性〉(53.6%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「ほとんど毎日」では〈女性65~69歳〉で73.8%、〈女性70歳以上〉と〈男性60~64歳〉で7割近くと高くなっている。

## (5) 健康づくりについての県の取組

問24 あなたは、県の健康づくりに関する取組についてどのようなことを期待しますか。  
次の中から2つまで選んでください。 [n=1,294]



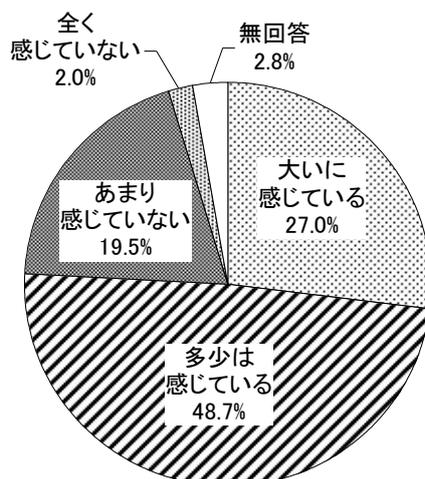
- ・全体で見ると、「健康づくりに関する情報（生活習慣病等の情報を含む）の発信」（68.5%）が7割近くで最も高く、次いで「県民総ぐるみによる健康づくり運動の展開」（45.9%）、「民間企業による健康づくり活動の促進・支援」（20.6%）、「NPOや地域自治会等による健康づくり活動の促進・支援」（19.4%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「民間企業による健康づくり活動の促進・支援」では〈男性〉（23.6%）が〈女性〉（18.3%）より5.3ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「健康づくりに関する情報（生活習慣病等の情報を含む）の発信」では〈男性30歳代〉が80.3%と高くなっている。「県民総ぐるみによる健康づくり運動の展開」では〈女性60～64歳〉が57.7%、〈男性60～64歳〉が57.6%と高くなっている。「民間企業による健康づくり活動の促進・支援」では〈男性30歳代〉が40.8%と高くなっている。

## 7 食の安全・安心について

### (1) 食品の安全性に対する不安

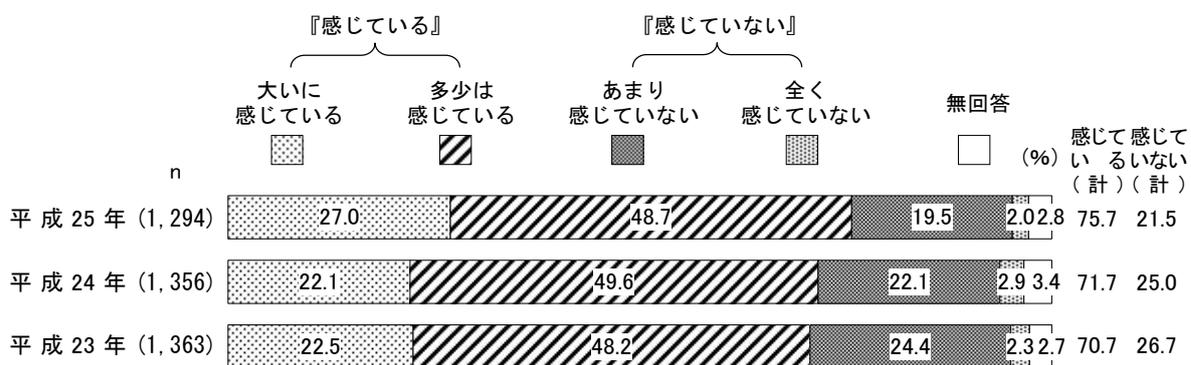
問25 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,294]



(n = 1,294)

- ・全体で見ると、「大いに感じている」(27.0%)と「多少は感じている」(48.7%)の2つを合わせた『感じている』(75.7%)は7割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(19.5%)と「全く感じていない」(2.0%)の2つを合わせた『感じていない』(21.5%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(80.8%)が〈男性〉(69.3%)より11.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性の50歳代以上の各年代〉でいずれも8割台と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『感じている』は前回(平成24年)と比べて4.0ポイント増加している。

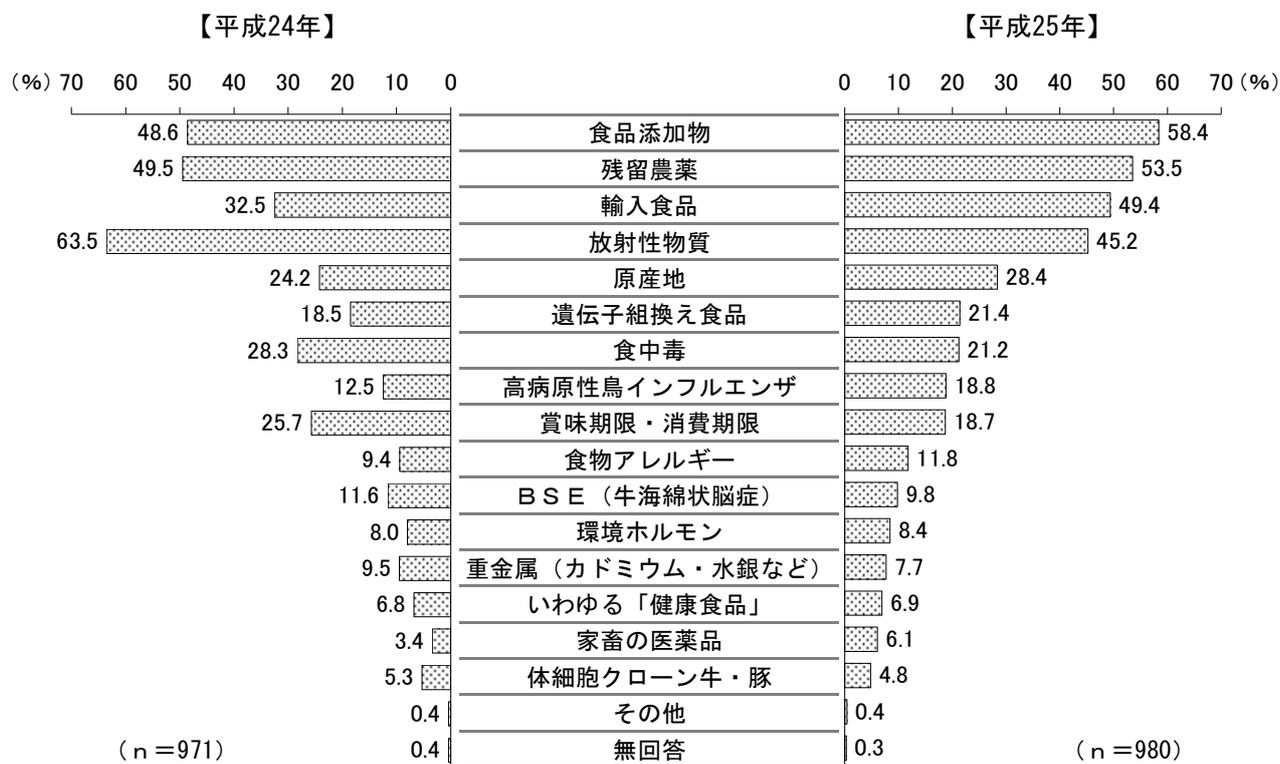
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問25で「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問25-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=980]



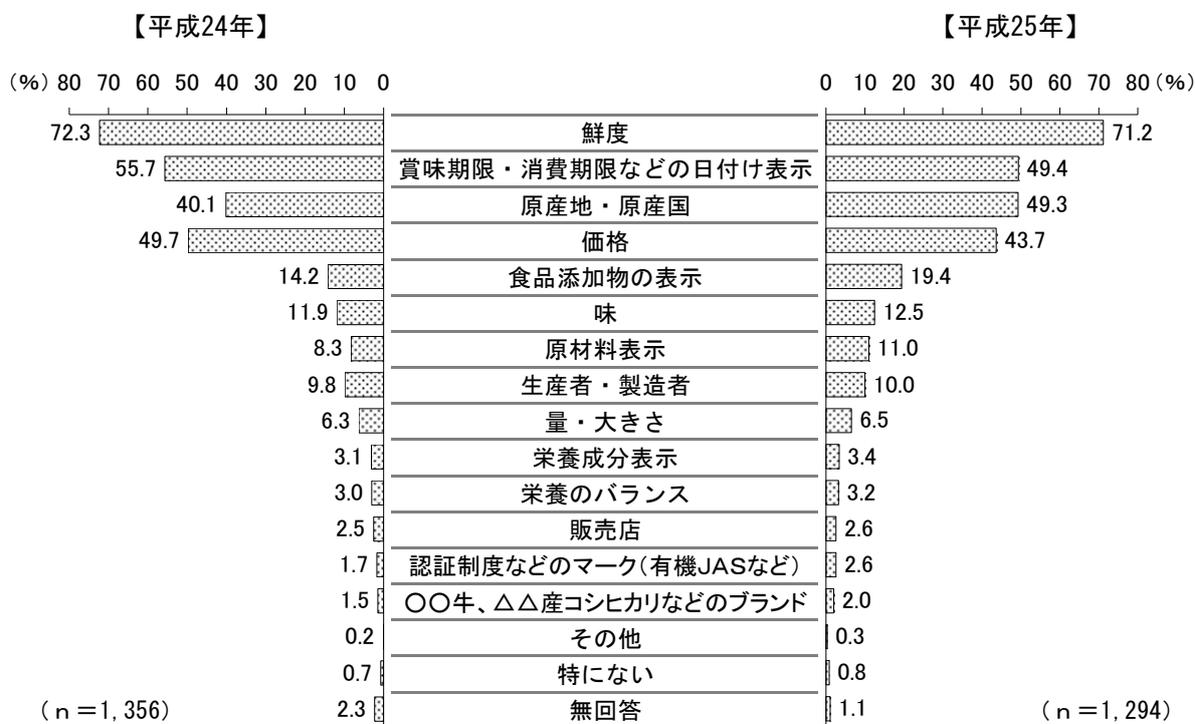
- ・全体で見ると、「食品添加物」(58.4%)が6割近くで最も高く、次いで「残留農薬」(53.5%)、「輸入食品」(49.4%)、「放射性物質」(45.2%)、「原産地」(28.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(62.0%)が〈男性〉(53.7%)より8.3ポイント高く、「放射性物質」では〈女性〉(48.5%)が〈男性〉(41.3%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が70.0%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性60~64歳〉が62.0%と他の年代に比べて高くなっている。「放射性物質」では〈女性30歳代〉が61.4%、〈女性20歳代〉が60.0%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性60~64歳〉が34.0%と高くなっている。
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「輸入食品」は16.9ポイント増加し、「食品添加物」は9.8ポイント増加している。一方、「放射性物質」は18.3ポイント減少している。

## (2) 食品を購入するときに気を付けること

問26 あなたが食品を購入するときに気を付けることは何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n = 1, 294]

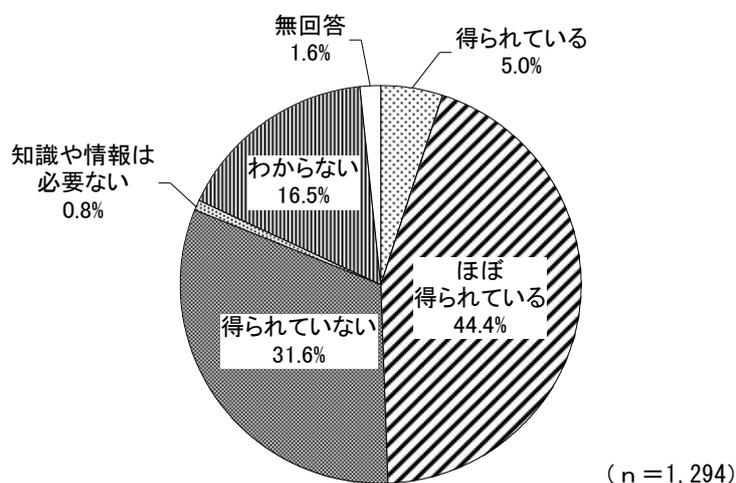


- ・全体で見ると、「鮮度」(71.2%)が7割を超えて最も高く、次いで「賞味期限・消費期限などの日付け表示」(49.4%)、「原産地・原産国」(49.3%)、「価格」(43.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「鮮度」では〈女性〉(74.4%)が〈男性〉(67.9%)より6.5ポイント高く、「原産地・原産国」では〈女性〉(52.7%)が〈男性〉(45.5%)より7.2ポイント高くなっている。「味」では〈男性〉(17.1%)が〈女性〉(8.5%)より8.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「鮮度」では〈男性の60～64歳以上の各年代〉と〈女性の30歳代以上の各年代〉がいずれも7割台と高くなっている。「原産地・原産国」では〈女性40歳代〉が62.2%と高くなっている。「価格」では〈女性20歳代〉が68.3%、〈男性20歳代〉が63.6%と高くなっている。
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「原産地・原産国」は9.2ポイント増加している。一方、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」は6.3ポイント減少し、「価格」は6.0ポイント減少している。

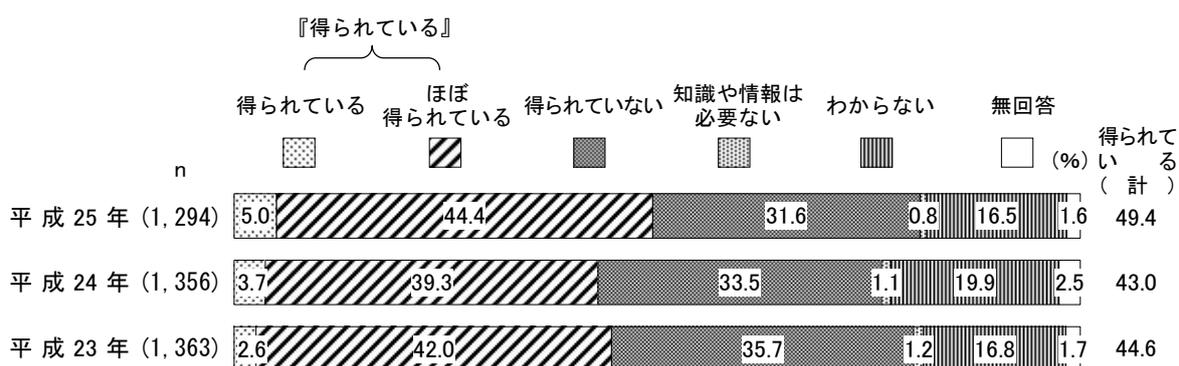
### (3) 食の安全に関する知識や情報の取得

問27 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,294]



- ・全体で見ると、「得られている」(5.0%)と「ほぼ得られている」(44.4%)の2つを合わせた『得られている』(49.4%)はほぼ5割となっている。一方、「得られていない」(31.6%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、『得られている』では〈女性〉(52.5%)が〈男性〉(46.1%)より6.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『得られている』では〈女性70歳以上〉で69.2%と他の年代に比べて高くなっている。「得られていない」では〈男性30歳代〉が49.3%と高くなっている。

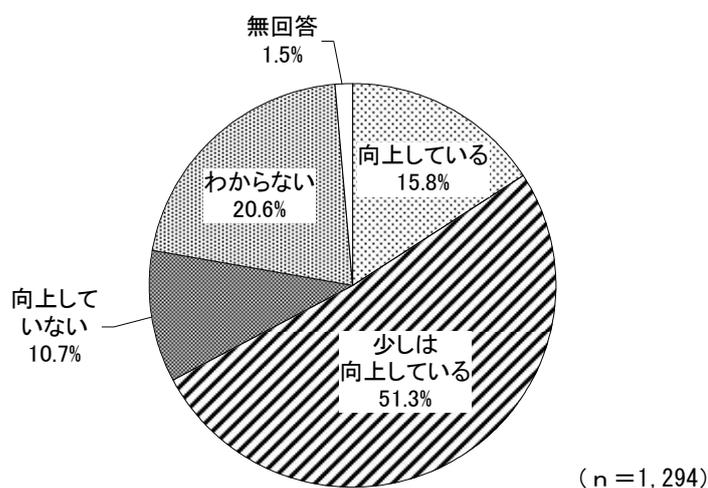


- ・過去の調査結果と比較すると、『得られている』は前回(平成24年)と比べて6.4ポイント増加している。

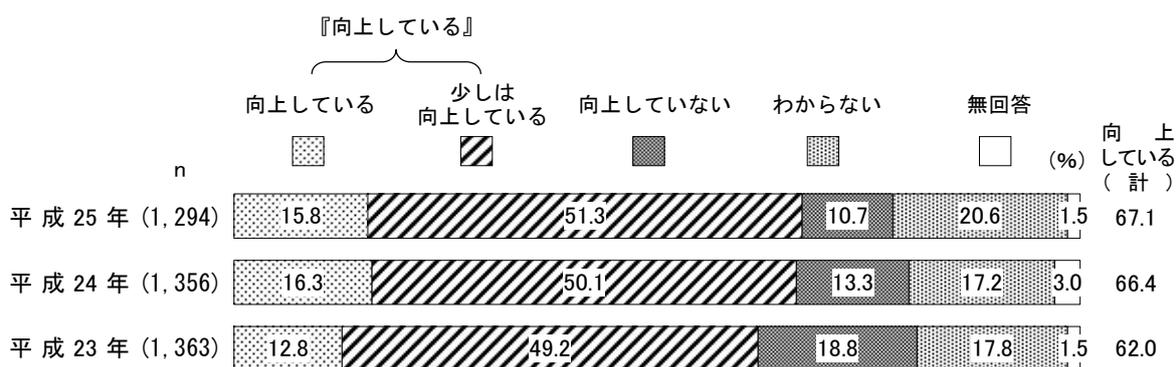
#### (4) 食品の安全性の向上

問28 食品の安全性は向上していると思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,294]



- ・全体でみると、「向上している」(15.8%)と「少しは向上している」(51.3%)の2つを合わせた『向上している』(67.1%)は7割近くとなっている。一方、「向上していない」(10.7%)はほぼ1割となっている。
- ・性別でみると、『向上している』では〈男性〉(70.3%)が〈女性〉(64.6%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『向上している』では〈男性の60～64歳以上の各年代〉で8割を超えて高くなっている。

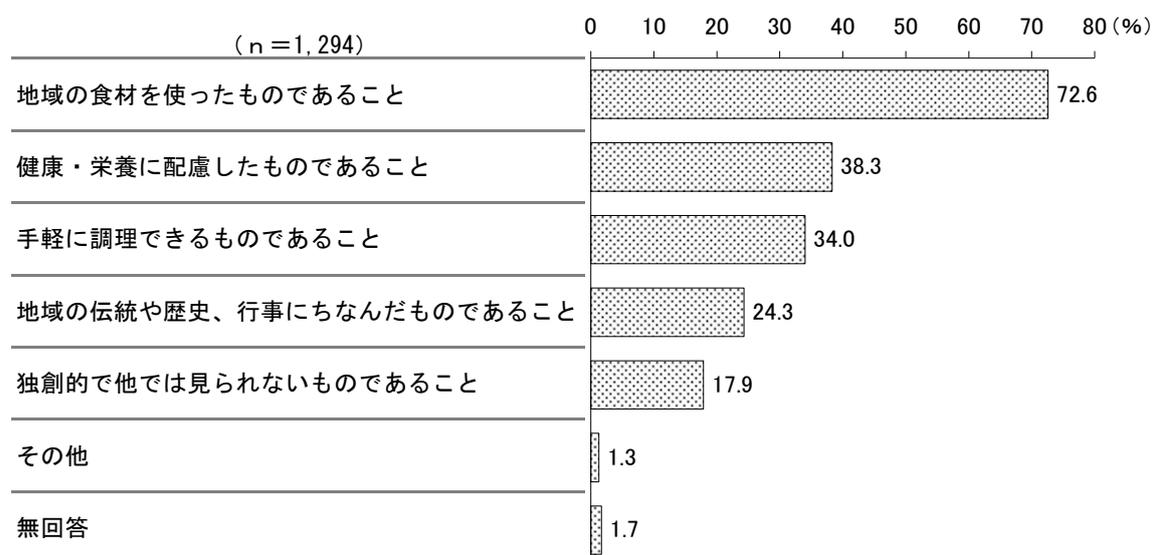


- ・過去の調査結果と比較すると、『向上している』の割合は前回(平成24年)とほぼ同じ割合となっている。

## 8 栃木の郷土の食について

### (1) 「新たな郷土の食」をつくりあげる上で必要なこと

問29 今後つくりあげていく「新たな郷土の食」には、どのような要素が重要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。 [n=1,294]



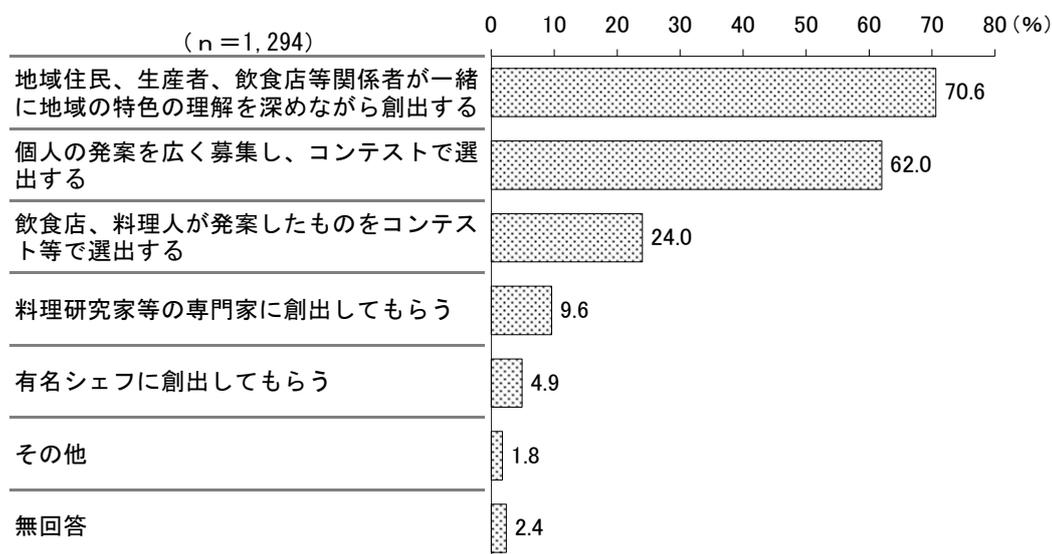
- ・全体でみると、「地域の食材を使ったものであること」（72.6%）が7割を超えて最も高く、次いで「健康・栄養に配慮したものであること」（38.3%）、「手軽に調理できるものであること」（34.0%）、「地域の伝統や歴史、行事にちなんだものであること」（24.3%）、「独創的で他では見られないものであること」（17.9%）の順となっている。
- ・性別でみると、「独創的で他では見られないものであること」では〈男性〉（23.6%）が〈女性〉（13.6%）より10.0ポイント高く、「手軽に調理できるものであること」では〈女性〉（37.1%）が〈男性〉（30.0%）より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「地域の食材を使ったものであること」では〈女性40歳代〉が84.1%、〈女性30歳代〉が83.1%と高くなっている。「健康・栄養に配慮したものであること」では〈男性70歳以上〉が50.0%、〈男性60～64歳〉が48.5%と高くなっている。「手軽に調理できるものであること」では〈女性60～64歳〉が50.0%、〈女性70歳以上〉が48.3%と高くなっている。「地域の伝統や歴史、行事にちなんだものであること」では〈男性の30歳代と40歳代〉と〈女性20歳代〉が4割近くと高くなっている。

## (2) 「新たな郷土の食」を創出するための方法

問30 「新たな郷土の食」は、どのように創出するのが良いと思いますか。

次の中から2つまで選んでください。

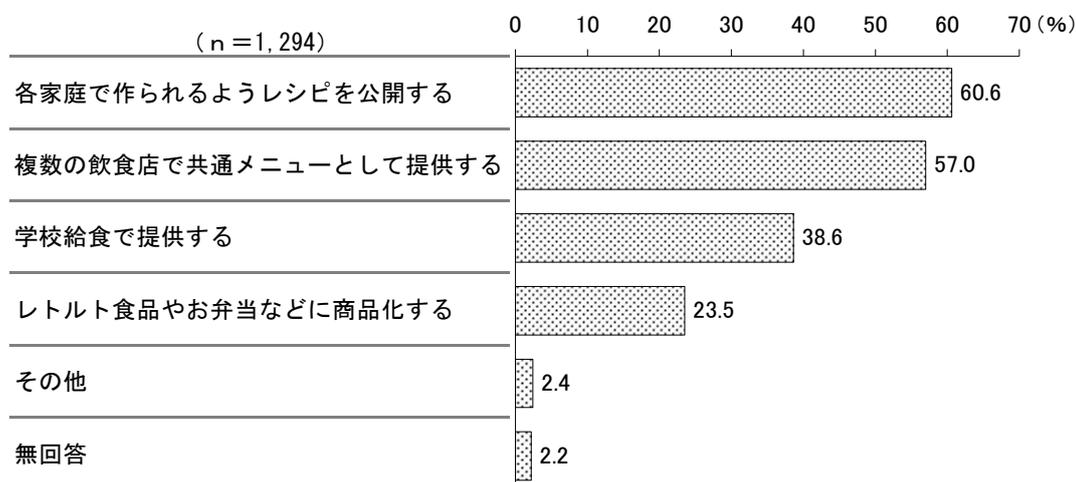
[n = 1,294]



- ・全体でみると、「地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する」（70.6%）がほぼ7割で最も高く、次いで「個人の発案を広く募集し、コンテストで選出する」（62.0%）、「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」（24.0%）、「料理研究家等の専門家に創出してもらう」（9.6%）の順となっている。
- ・性別でみると、「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」では〈男性〉（27.8%）が〈女性〉（21.0%）より6.8ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別でみると、「地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する」では〈男性70歳以上〉が81.5%と高くなっている。「個人の発案を広く募集し、コンテストで選出する」では〈女性65～69歳〉が70.0%と他の年代に比べて高くなっている。「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」では〈男性50歳代〉が38.7%と高くなっている。

### (3) 「新たな郷土の食」を地域に浸透させていくための方法

問31 「新たな郷土の食」を地域に浸透させていくためには、どうすればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。 [n=1,294]



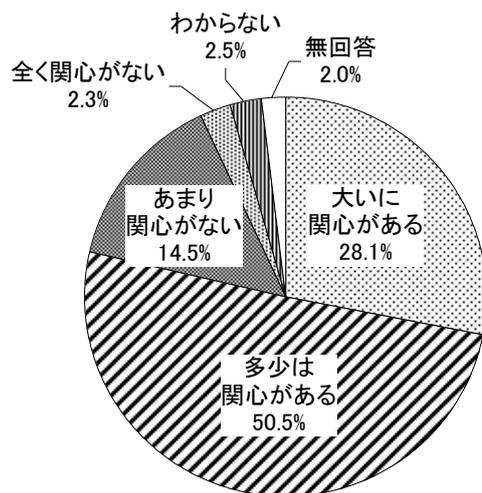
- ・全体でみると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」(60.6%)がほぼ6割で最も高く、次いで「複数の飲食店で共通メニューとして提供する」(57.0%)、「学校給食で提供する」(38.6%)、「レトルト食品やお弁当などに商品化する」(23.5%)の順となっている。
- ・性別でみると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」では〈女性〉(62.0%)が〈男性〉(57.8%)より4.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」では〈男性60～64歳〉が75.8%、〈男性65～69歳〉が71.6%と高くなっている。「複数の飲食店で共通メニューとして提供する」では〈男性30歳代〉が76.1%、〈男性50歳代〉が71.0%と高くなっている。「学校給食で提供する」では〈男性20歳代〉が54.5%と高くなっている。「レトルト食品やお弁当などに商品化する」では〈女性40歳代〉が34.1%と高くなっている。

## 9 栃木県の景観まちづくりについて

### (1) 地域の景観に対する関心

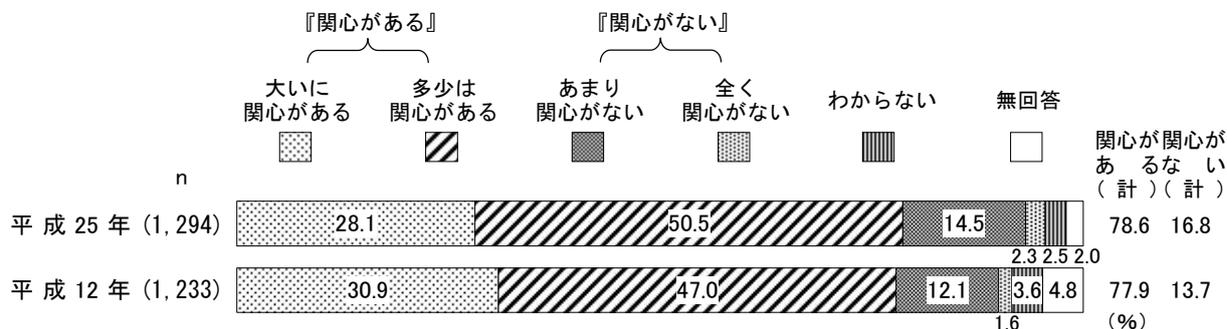
問32 あなたは、いまお住まいの地域の景観に関心がありますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 294]



(n = 1, 294)

- ・全体でみると、「大いに関心がある」(28.1%)と「多少は関心がある」(50.5%)の2つを合わせた『関心がある』(78.6%)は8割近くとなっている。一方、「あまり関心がない」(14.5%)と「全く関心がない」(2.3%)の2つを合わせた『関心がない』(16.8%)は2割近くとなっている。
- ・性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別でみると、「大いに関心がある」では〈女性65～69歳〉が42.5%、〈男性60～64歳〉が39.4%と高くなっている。『関心がない』では〈男性30歳代〉が32.4%、〈女性40歳代〉が30.5%と高くなっている。

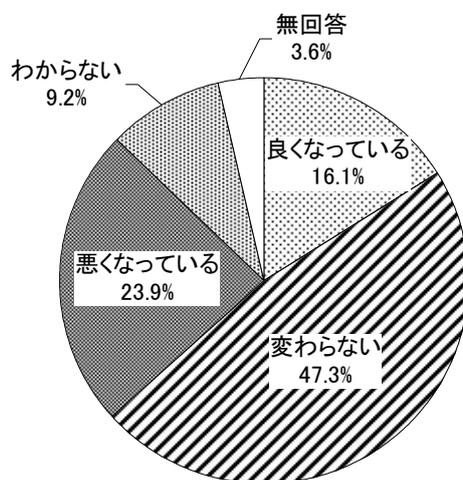


- ・平成12年の調査結果と比較すると、『関心がある』の割合はともに8割近くとなっている。

## (2) 身近な景観の変化

問33 あなたの身近な景観は、どのように変化していると感じていますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 294]



(n = 1, 294)

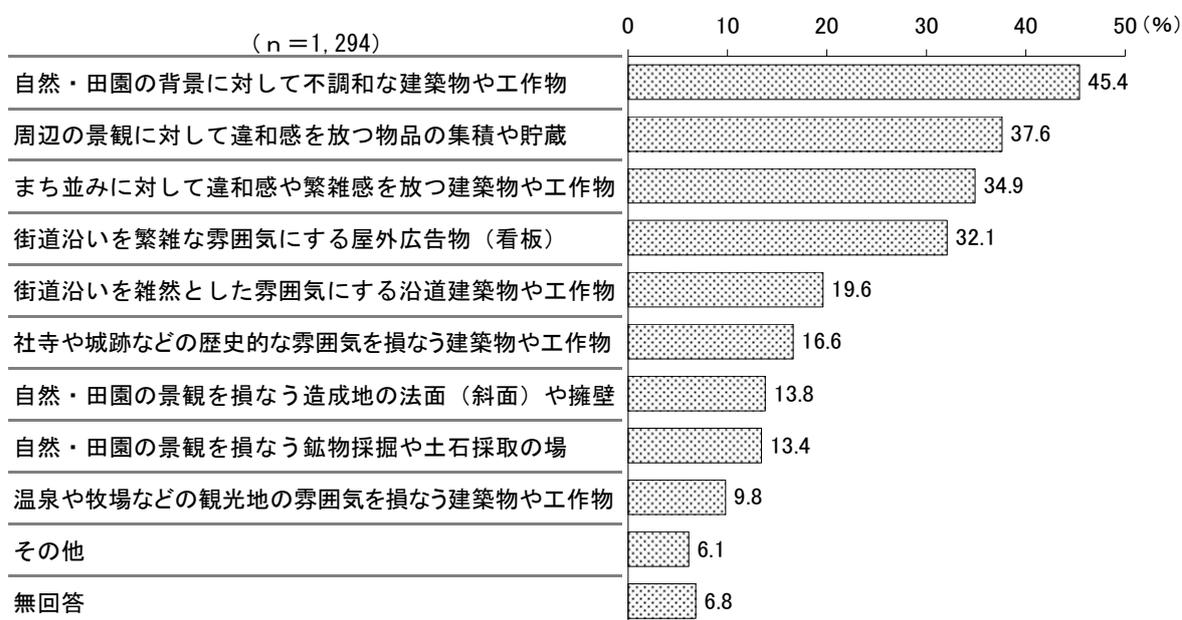
- ・全体で見ると、「良くなっている」(16.1%)は1割半ばとなっている。「変わらない」(47.3%)は5割近くで、「悪くなっている」(23.9%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっている」では〈男性65～69歳〉と〈女性の65～69歳以上の各年代〉が2割半ばと高くなっている。一方、「悪くなっている」では〈男性50歳代〉が32.3%と他の年代に比べて高くなっている。

### (3) 景観を悪くしている原因

問34 景観を悪くするものは、どのようなものだと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。

[n = 1,294]



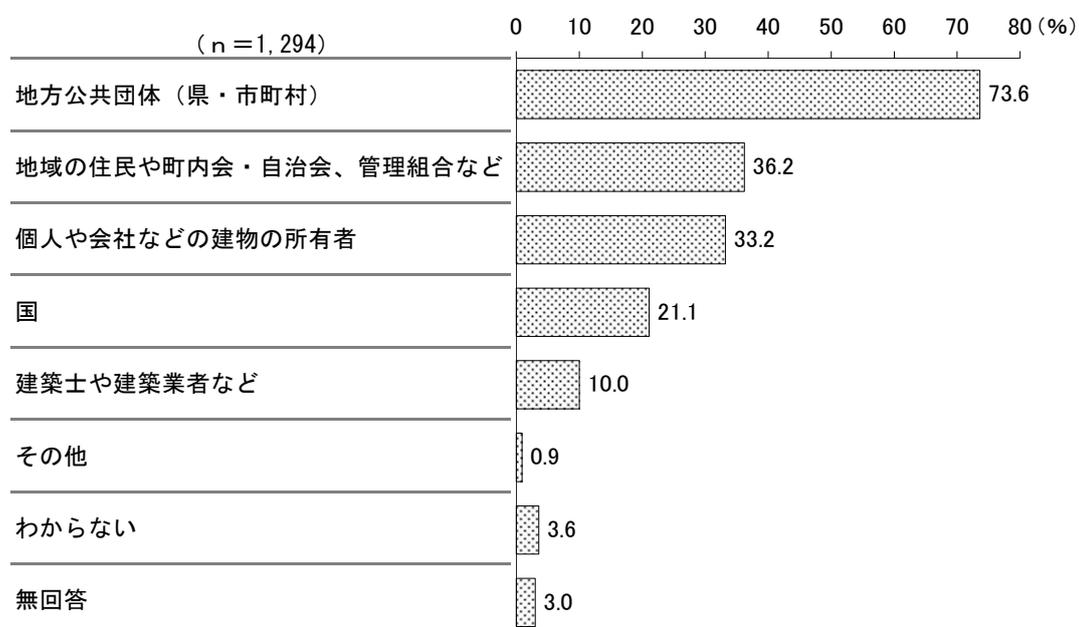
- ・全体でみると、「自然・田園の背景に対して不調和な建築物や工作物」（45.4%）が4割半ばで最も高く、次いで「周辺の景観に対して違和感を放つ物品の集積や貯蔵」（37.6%）、「まち並みに対して違和感や繁雑感を放つ建築物や工作物」（34.9%）、「街道沿いを繁雑な雰囲気にする屋外広告物（看板）」（32.1%）、「街道沿いを雑然とした雰囲気にする沿道建築物や工作物」（19.6%）の順となっている。
- ・性別でみると、「街道沿いを繁雑な雰囲気にする屋外広告物（看板）」では〈男性〉（35.5%）が〈女性〉（29.8%）より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自然・田園の背景に対して不調和な建築物や工作物」では〈男性50歳代〉が57.0%と高くなっている。「周辺の景観に対して違和感を放つ物品の集積や貯蔵」では〈女性50歳代〉が50.4%と高く、「街道沿いを繁雑な雰囲気にする屋外広告物（看板）」では〈女性30歳代〉が47.2%と高くなっている。

#### (4) 景観を良くするために取り組むべき主体

問35 景観を良くするために、誰が主体的に取り組むべきだと思いますか。

次の中から2つ選んでください。

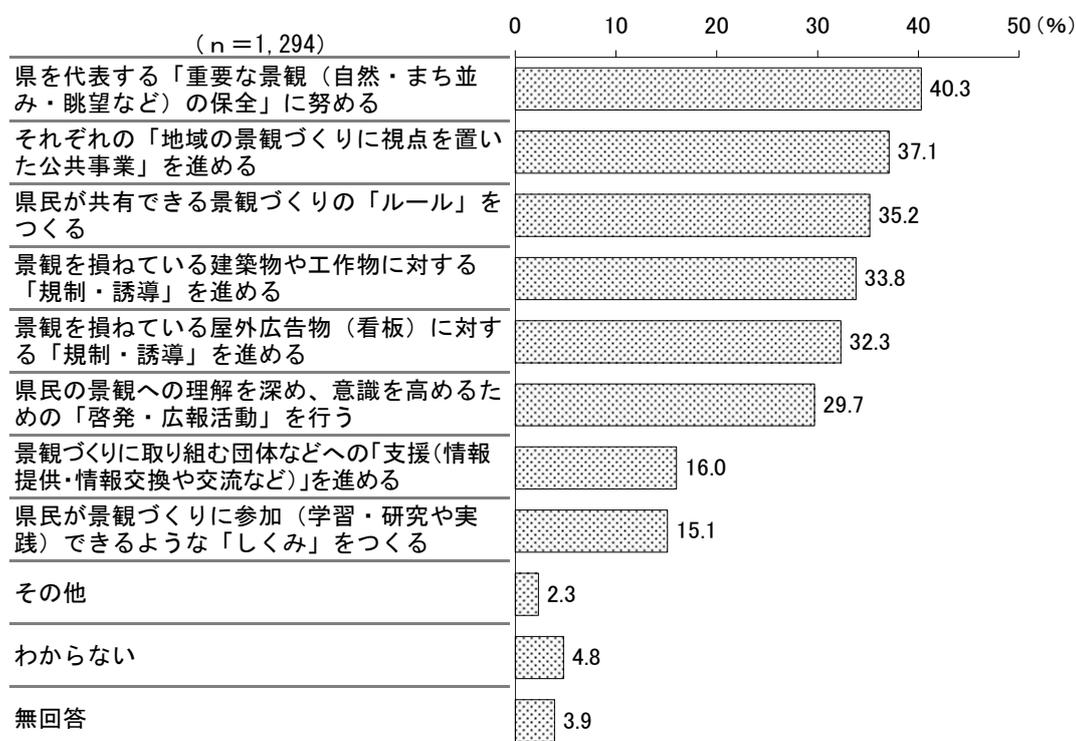
[n=1,294]



- ・全体で見ると、「地方公共団体 (県・市町村)」(73.6%)が7割を超えて最も高く、次いで「地域の住民や町内会・自治会、管理組合など」(36.2%)、「個人や会社などの建物の所有者」(33.2%)、「国」(21.1%)、「建築士や建築業者など」(10.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「地方公共団体 (県・市町村)」では〈男性〉(77.2%)が〈女性〉(71.9%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地域の住民や町内会・自治会、管理組合など」では〈女性65～69歳〉が45.0%、〈女性70歳以上〉が44.8%と高くなっている。「個人や会社などの建物の所有者」では〈女性60～64歳〉が42.3%と他の年代に比べて高くなっている。「国」では〈男性30歳代〉が32.4%、〈男性60～64歳〉が31.8%、〈男性40歳代〉が31.7%と高くなっている。

## (5) 景観づくりを進めていくための行政の取組

問36 県内の景観づくりを進めていくために、行政としては特に何に力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,294]



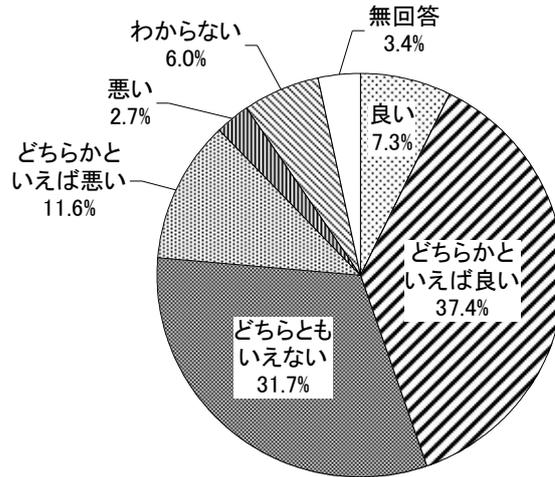
- ・全体でみると、「県を代表する『重要な景観（自然・まち並み・眺望など）の保全』に努める」（40.3%）が4割で最も高く、次いで「それぞれの『地域の景観づくりに視点を置いた公共事業』を進める」（37.1%）、「県民が共有できる景観づくりの『ルール』をつくる」（35.2%）、「景観を損ねている建築物や工作物に対する『規制・誘導』を進める」（33.8%）の順となっている。
- ・性別でみると、「景観を損ねている屋外広告物（看板）に対する『規制・誘導』を進める」では〈男性〉（36.9%）が〈女性〉（29.3%）より7.6ポイント高く、「県民の景観への理解を深め、意識を高めるための『啓発・広報活動』を行う」では〈男性〉（33.4%）が〈女性〉（27.1%）より6.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「県民が共有できる景観づくりの『ルール』をつくる」では〈男性50歳代〉が50.5%と高くなっている。「県民の景観への理解を深め、意識を高めるための『啓発・広報活動』を行う」では〈男性の60～64歳以上の各年代〉が4割前後と高くなっている。

## 10 犯罪と治安対策について

### (1) 県内の治安状況

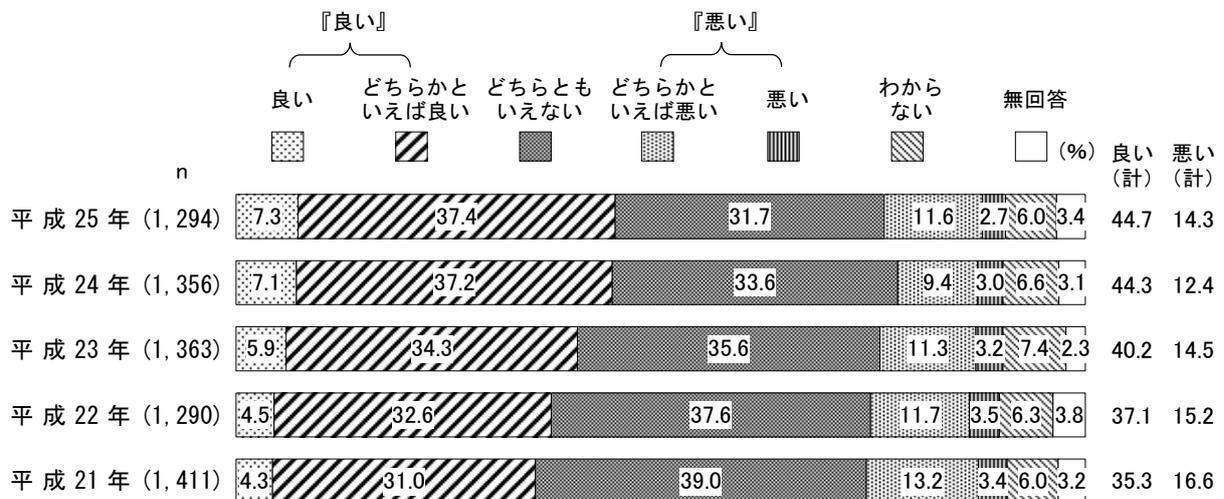
問37 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,294]



(n=1,294)

- ・全体で見ると、「良い」(7.3%)と「どちらかといえば良い」(37.4%)の2つを合わせた『良い』(44.7%)が4割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(11.6%)と「悪い」(2.7%)の2つを合わせた『悪い』(14.3%)は1割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(31.7%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、『悪い』では〈男性〉(16.5%)が〈女性〉(12.6%)より3.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『悪い』では〈男性20歳代〉が25.5%と高くなっている。

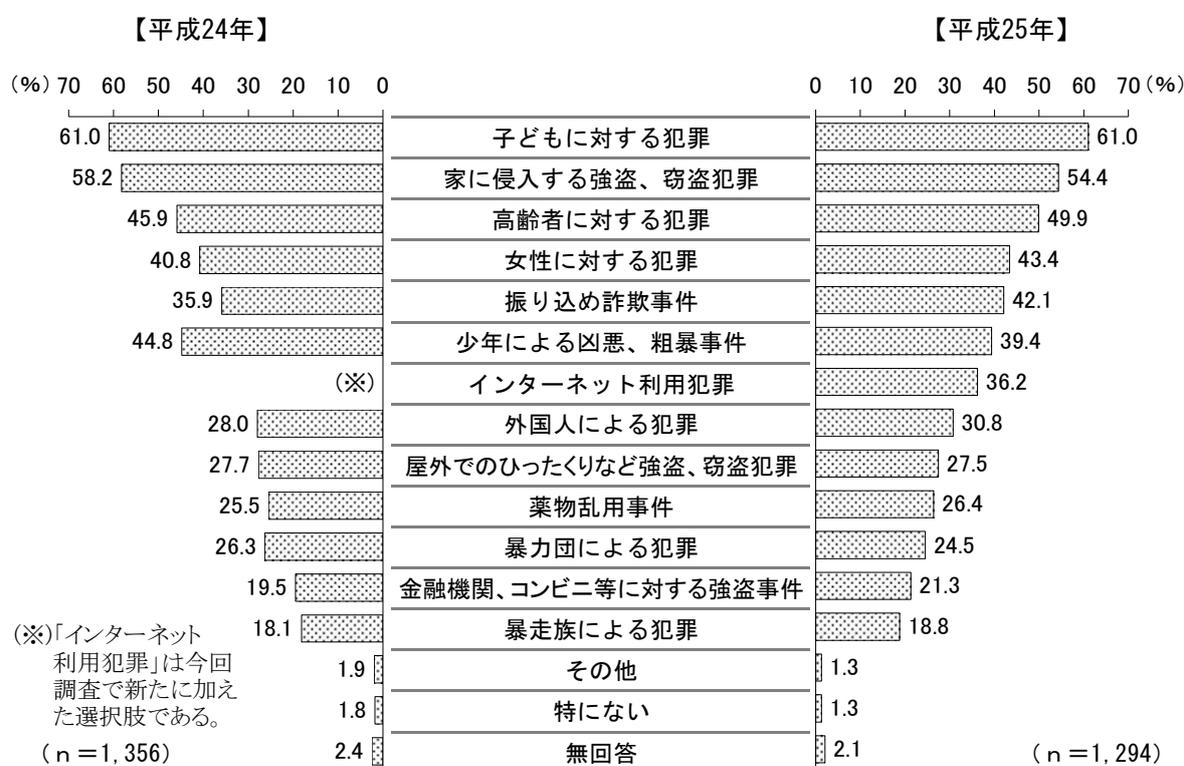


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(平成24年)と比べて大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 不安を感じる犯罪

問38 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,294]

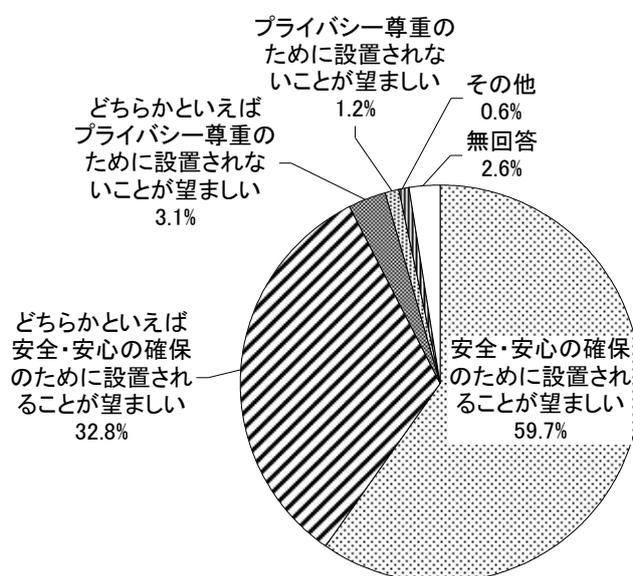


- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(54.4%)、「高齢者に対する犯罪」(49.9%)、「女性に対する犯罪」(43.4%)、「振り込め詐欺事件」(42.1%)、「少年による凶悪、粗暴事件」(39.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(58.8%)が〈男性〉(50.0%)より8.8ポイント、「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(65.0%)が〈男性〉(57.9%)より7.1ポイント、「高齢者に対する犯罪」では〈女性〉(53.7%)が〈男性〉(46.6%)より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が86.5%、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性30歳代〉が70.8%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が68.5%、「振り込め詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が55.9%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性30歳代〉が61.8%、〈女性20歳代〉が60.3%と高くなっている。
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「振り込め詐欺事件」が6.2ポイント、「高齢者に対する犯罪」が4.0ポイント増加している。一方、「少年による凶悪、粗暴事件」は5.4ポイント減少している。

### (3) 公共空間における防犯カメラの設置について

問39 あなたは、公共空間における防犯カメラの設置についてどのように思いますか。  
次の中から1つを選んでください。

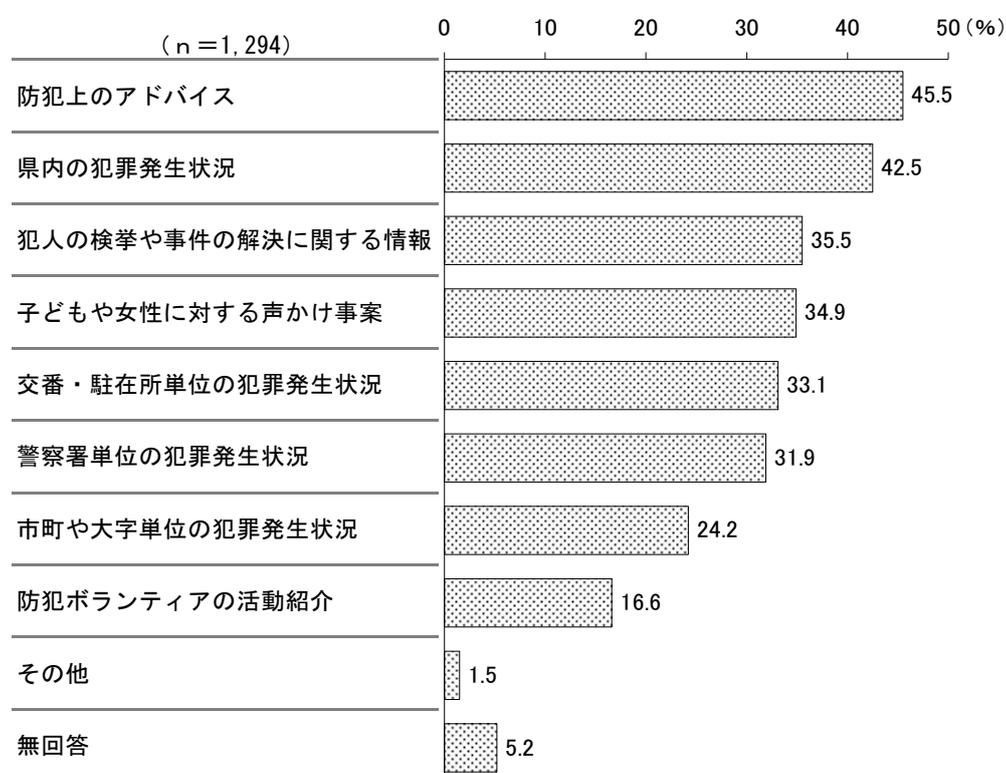
[n = 1, 294]



- ・全体でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(59.7%)が6割、「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(32.8%)が3割を超えており、この2つを合わせた『設置されることが望ましい』(92.5%)は9割を超えている。「どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(3.1%)と「プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(1.2%)の2つを合わせた『設置されないことが望ましい』(4.3%)は1割に満たない。
- ・性別でみると、『設置されることが望ましい』では〈女性〉(94.7%)が〈男性〉(91.3%)より3.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『設置されることが望ましい』では〈男性70歳以上〉(88.7%)以外のすべての年代で9割台と高くなっている。

#### (4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと

問40 犯罪の発生や防犯に関して、あなたは、警察からどのような内容の情報提供を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,294]

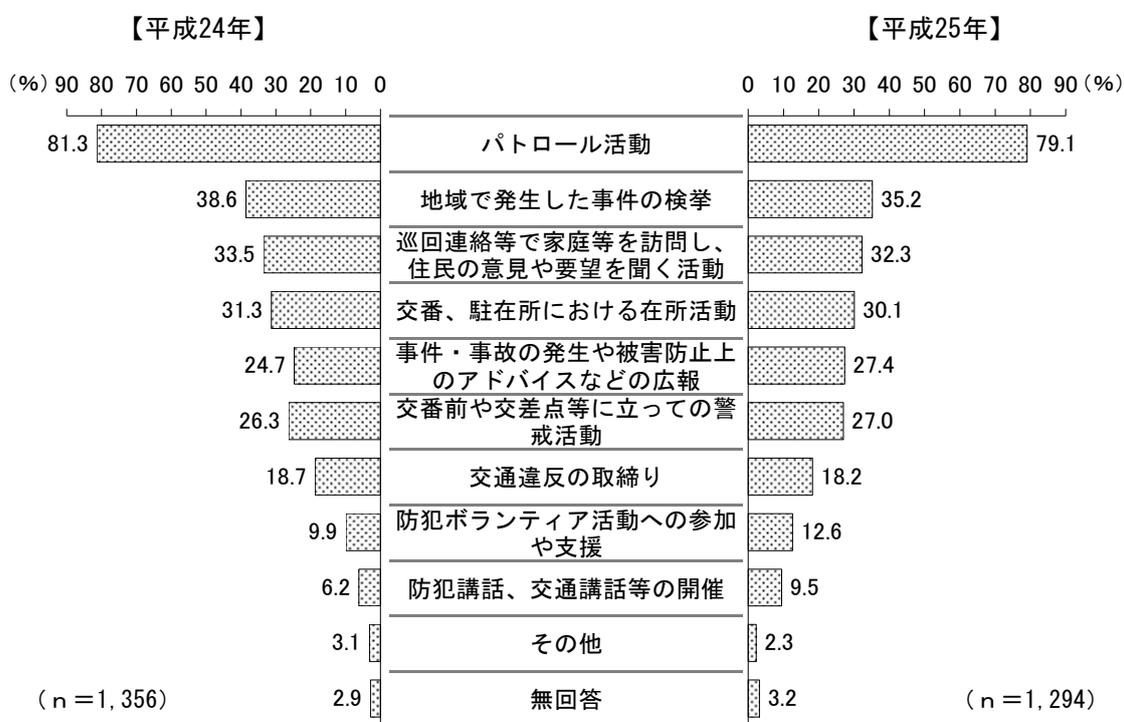


- ・全体でみると、「防犯上のアドバイス」(45.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「県内の犯罪発生状況」(42.5%)、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」(35.5%)、「子どもや女性に対する声かけ事案」(34.9%)、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」(33.1%)、「警察署単位の犯罪発生状況」(31.9%)の順となっている。
- ・性別でみると、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性〉(40.3%)が〈男性〉(29.8%)より10.5ポイント高く、「警察署単位の犯罪発生状況」では〈男性〉(37.4%)が〈女性〉(27.2%)より10.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「県内の犯罪発生状況」では〈女性20歳代〉が60.3%と高く、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性30歳代〉が52.8%と高くなっている。

(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問41 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,294]

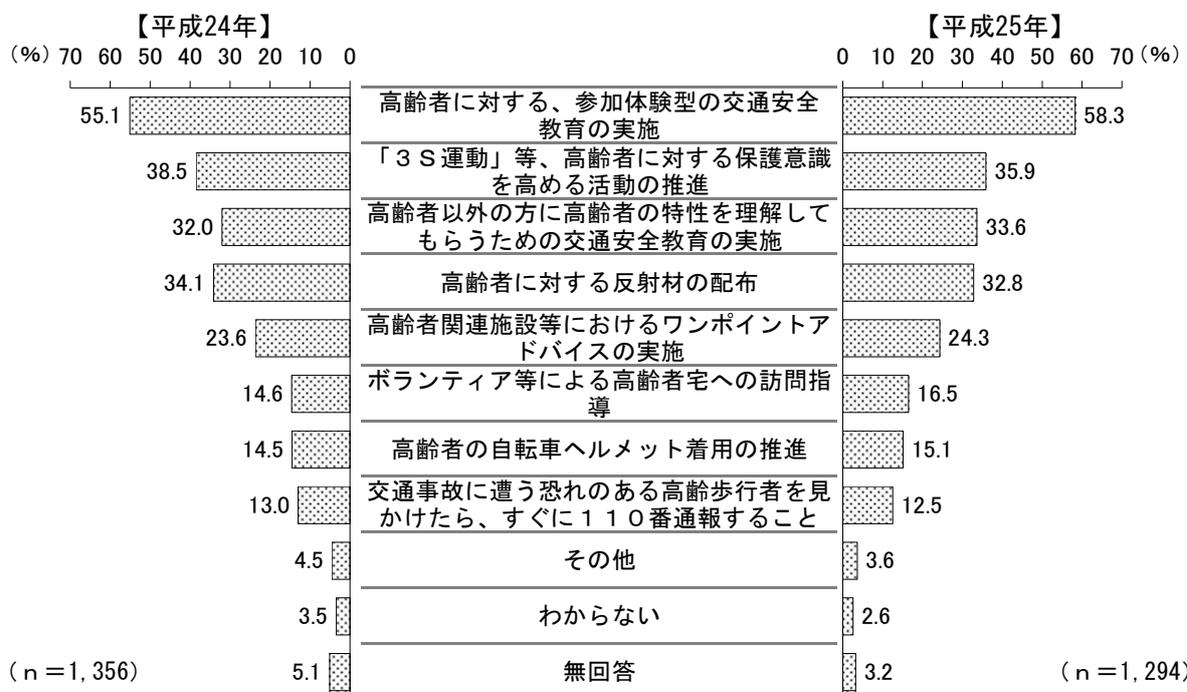


- ・全体でみると、「パトロール活動」(79.1%)がほぼ8割で最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(35.2%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(32.3%)、「交番、駐在所における在所活動」(30.1%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(27.4%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(27.0%)の順となっている。
- ・性別でみると、「パトロール活動」では〈女性〉(83.8%)が〈男性〉(75.9%)より7.9ポイント高く、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(35.7%)が〈女性〉(28.6%)より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性20歳代〉が49.1%、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が44.4%、「交番、駐在所における在所活動」では〈女性60～64歳〉が43.6%と高くなっている。
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、上位4項目については同じ順位となっている。

## (6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問42 高齢者が交通事故の当事者になる割合が増えています。高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n = 1, 294]



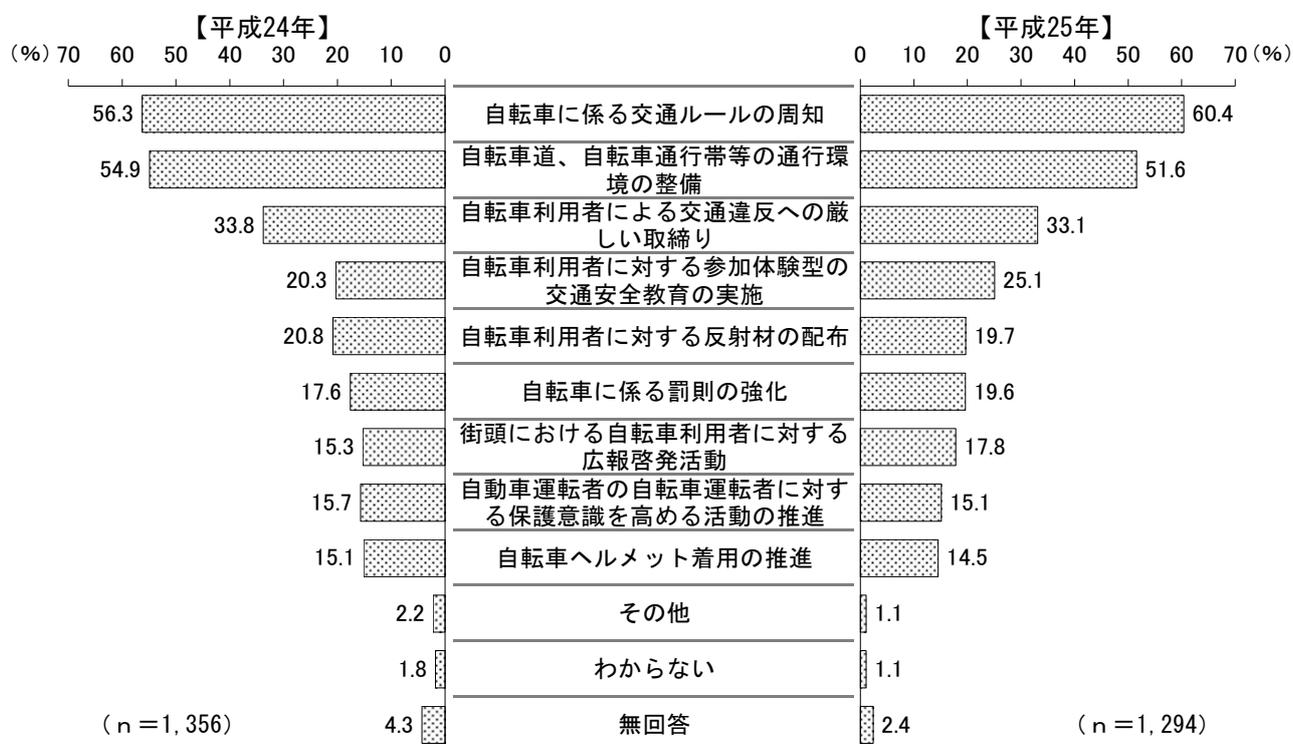
- ・全体で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」（58.3%）が6割近くで最も高く、次いで「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」（35.9%）、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」（33.6%）、「高齢者に対する反射材の配布」（32.8%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性〉（38.3%）が〈女性〉（34.1%）より4.2ポイント高く、「高齢者に対する反射材の配布」では〈女性〉（34.6%）が〈男性〉（30.0%）より4.6ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈女性40歳代〉が73.2%と高くなっている。
- ・前回（平成24年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問43 あなたは、自転車の安全利用を促進するために何が重要だと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。

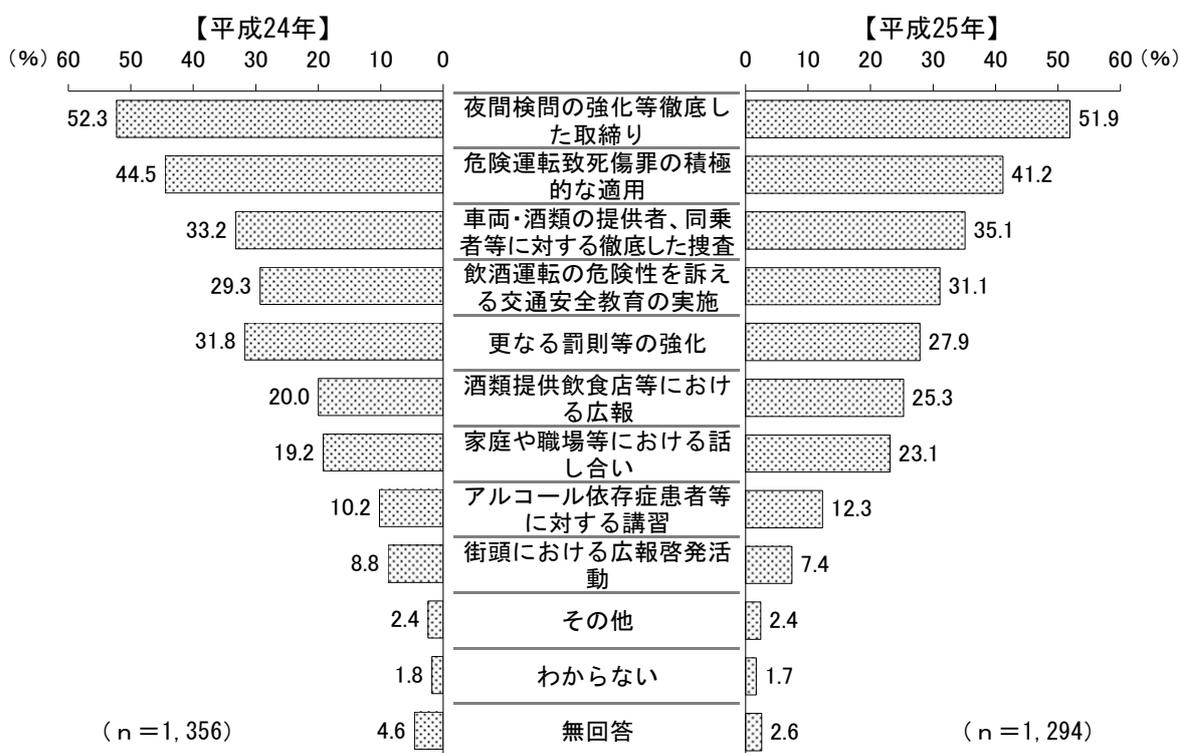
[n=1,294]



- ・全体で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」(60.4%)が6割で最も高く、次いで「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(51.6%)、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(33.1%)、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(25.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(23.1%)が〈男性〉(15.7%)より7.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」では〈男性の60～64歳と65～69歳〉が72.7%と高くなっている。「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈女性40歳代〉が62.2%、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性30歳代〉が46.5%と高くなっている。
- ・前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」は4.8ポイント増加し、「自転車に係る交通ルールの周知」は4.1ポイント増加している。

## (8) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問44 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1, 294]



- ・全体でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」（51.9%）が5割を超えて最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」（41.2%）、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」（35.1%）、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」（31.1%）の順となっている。
- ・性別でみると、「酒類提供飲食店等における広報」では〈女性〉（28.1%）が〈男性〉（21.4%）より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈男性30歳代〉が66.2%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈女性70歳以上〉が42.0%、〈女性65～69歳〉が41.3%と高くなっている。「更なる罰則等の強化」では〈女性20歳代〉が44.4%と高くなっている。「家庭や職場等における話し合い」では〈男性65～69歳〉が35.2%、〈女性60～64歳〉が34.6%と高くなっている。
- ・前回（平成24年）の調査結果と比較すると、「酒類提供飲食店等における広報」は5.3ポイント、「家庭や職場等における話し合い」は3.9ポイント増加している。

平成25年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成25年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20  
電話 (028) 623-2158